

J P C

J A P A N P O W E R C I T I E S

日本の 都市特性評価

JAPAN POWER CITIES
Profiling Urban Attractiveness

2 0 1 9

はじめに

森記念財団都市戦略研究所は「日本の都市特性評価 (Japan Power Cities — Profiling Urban Attractiveness / JPC)」を初めて昨年に発表しました。すでに2008年から「世界の都市総合ランキング (Global Power City Index / GPCI)」を11年以上にわたって毎年継続的に当研究所では発表してきました。幸いに、海外からの都市政策立案に携わる方々、ビジネスパーソン、都市に興味を持つ多くの研究者などから高い評価を得ることができ、国際的視点に立った都市評価のベンチマークとしての地歩を固めることができました。その一方で、日本国内の数多くの都市から、GPCIのように都市力を評価して欲しいといった要望があり、これに応えるため、国内都市に相応しい新たな評価体系を構築し、都市力を相対的・多角的に分析することにしました。このJPCで各都市の強みや魅力を評価した結果に対し、メディアをはじめ、地方自治体や経済団体などから大きな反響がありました。

JPCは、都市の強みや魅力といった都市特性を明らかにすることを目的としています。日本では第3次産業の発展によって大都市での肥大が進む一方で、地方都市での人口減少や産業の衰退が懸念されています。大都市がどうあるべきか、そして地方都市の活力をいかに取り戻すかが喫緊の課題となっています。この課題の解決のためには、大都市と地方の都市特性を客観的に評価し、強み弱みを明らかにする必要があります。こうした評価を毎年実施することで、その特性の継続性を分析することが可能となります。

2年目の今年は、指標の半数以上についてデータの更新を行い、また、いくつかの指標については、指標の意義をより高いものとするための定義の変更を行うとともに、都市を取り巻く環境の変化をより反映させるために、新たな指標を追加しました。JPCがこれからの都市と国土のあるべき姿を導き出すベンチマークとなり、地方創生の答えを導き出すとともに、日本全体が活力を維持していくための戦略立案の材料として役立てられることを期待しています。

日本の都市特性評価 運営委員会 委員長

市川 宏雄

2019年9月



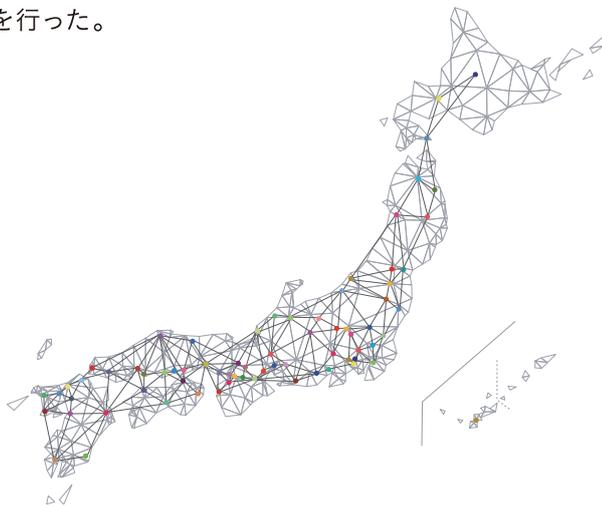
「日本の都市特性評価 2019」とは

About JPC 2019

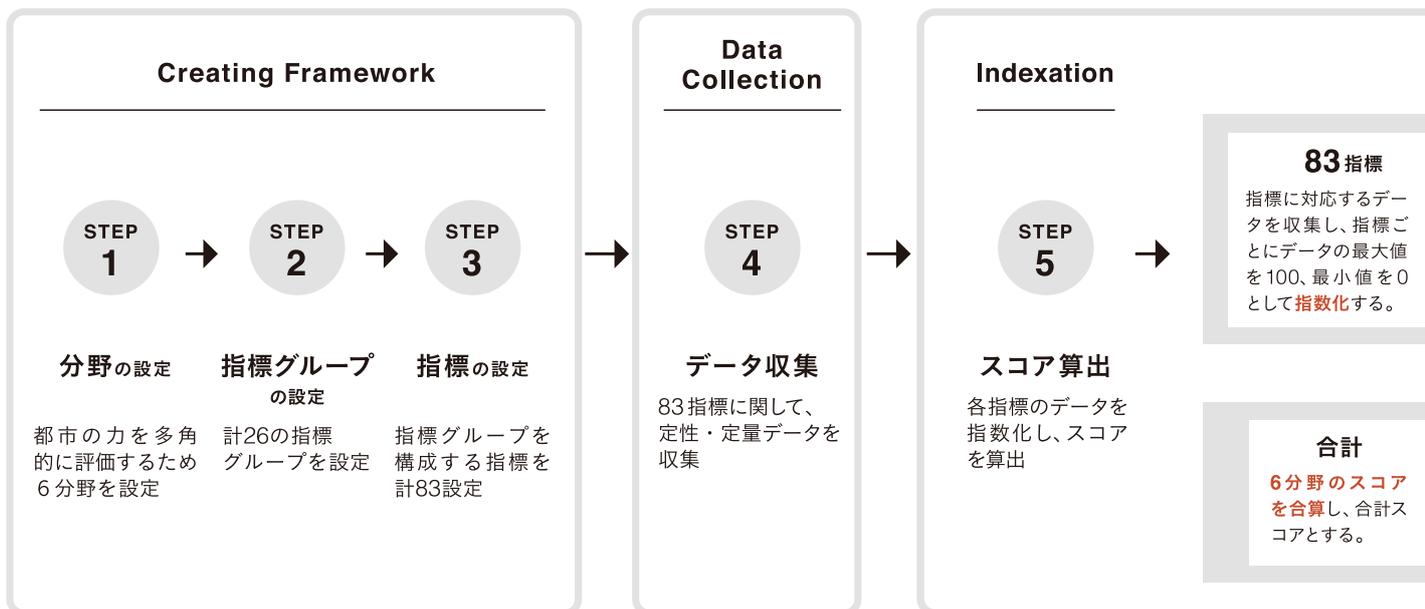
背景・目的

世界の総人口が今後も増加を続けていくと予測されている一方、日本では少子高齢化および急速な人口減少が見込まれている。そのような状況に直面してもなお、**日本全体が活力を保ち続けるためには、各都市がそれぞれの“特性”を活かしながら都市づくりを進め**、人や企業を惹きつける「磁力」と、魅力や強みを継続的に発揮し続ける「発展性」を維持していかなければならない。

そのためには、各都市が現在の都市の力を客観的に把握した上で、次の時代に向けた都市戦略を立案し、実行に移していくことが求められる。そこで、「日本の都市特性評価」では、日本の各都道府県における主要都市を対象として、都市の力を定量・定性データをもとに**相対的かつ多角的に分析し、都市の強みや魅力といった都市特性を明らかにすることを目的**として調査研究を行った。



評価手法



策定体制

運営委員会

Steering Committee

評価体系の構築、データ収集、評価・分析

【委員長】



市川 宏雄

Hiroo Ichikawa

明治大学名誉教授

【メンバー】

森記念財団 都市戦略研究所
株式会社 三菱総合研究所



意見
助言

有識者委員会

Expert Committee

専門的な見地からの意見および助言

【委員（五十音順）】



浅見 泰司

Yasushi Asami

東京大学大学院
工学系研究科
教授



市川 一宏

Kazuhiro Ichikawa

ルーテル学院大学
学長、教授



岸井 隆幸

Takayuki Kishii

日本大学理工学部
土木工学科
特任教授



中井 検裕

Norihiro Nakai

東京工業大学
環境・社会理工学院長
教授



中川 雅之

Masayuki Nakagawa

日本大学経済学部
教授



花木 啓祐

Keisuke Hanaki

東洋大学
情報連携学部教授、
東京大学名誉教授



吉見 俊哉

Shunya Yoshimi

東京大学大学院
情報学環
学際情報学府
教授

スコア算出方法

26 指標グループ

83の指標データを指数化した後、それぞれの指標が属する計26の指標グループごとに平均値を算出する。

6 分野

指標グループごとの平均値を、分野ごとに合計し、各分野のスコアとする。

主要72都市

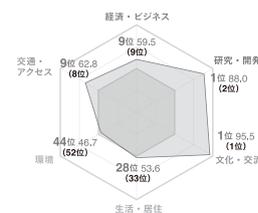
分野別スコア
合計スコア

東京23区

分野別スコア
合計スコア

Evaluation and Analysis

1 分野別 レーダーチャート

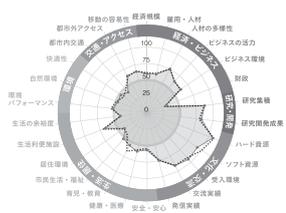


STEP
6

評価・分析

多角的に都市を評価するために6分野を設定し、そのスコアの偏差値と順位を用いてレーダーチャートを作成した。

2 指標グループ別 レーダーチャート



各都市がどのような指標グループにおいて、強みを発揮しているか、レーダーチャートを用いて視覚的に明らかにした。

対象都市

Target Cities

本調査では、国内の主要72都市と東京23区を対象とした。主要72都市の選定方法にまず、各都道府県で人口規模が第1～3位の都市のリストを作成した。その上でつぎに、

- 1) 政令指定都市および
- 2) 県庁所在地の都市を抽出した。

さらに、1)、2)の都市に加えて、

- 3) 人口20万人以上かつ一定の昼夜間人口比率（3大都市圏では1.0以上、それ以外は

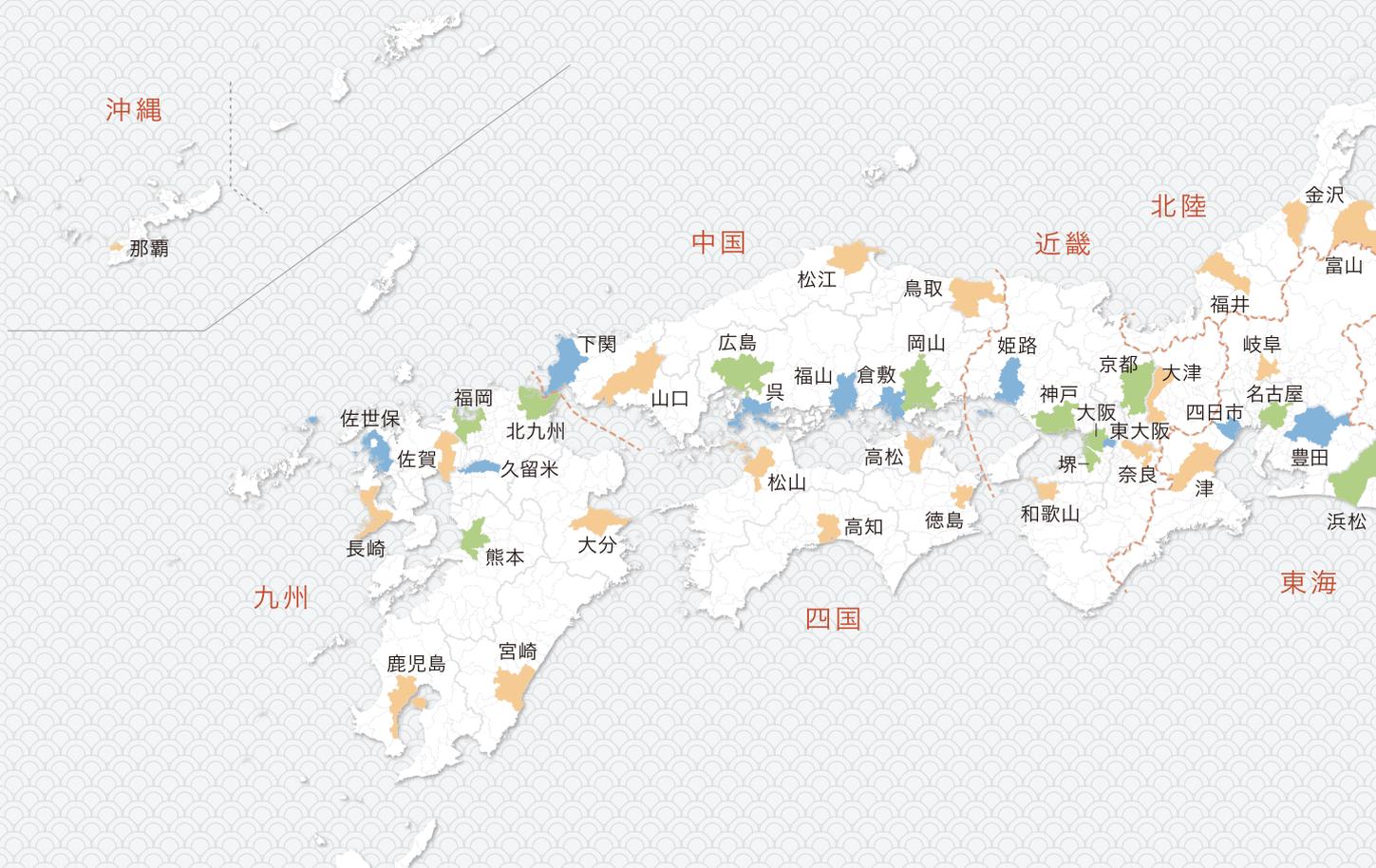
各都道府県で人口規模が第1～3位の都市

	政令指定都市	(政令指定都市以外の) 県庁所在地	人口20万人以上かつ、 一定の昼夜間人口比率の都市 (3大都市圏では1.0以上、それ以外は0.9以上)
北海道	札幌		函館・旭川
東北	仙台	青森・盛岡・秋田・山形・福島	八戸・郡山・いわき
関東	さいたま・千葉・横浜・川崎・相模原	水戸・宇都宮・前橋・甲府・長野	つくば・高崎・太田・松本
東海	静岡・浜松・名古屋	岐阜・津	富士・豊田・四日市
北陸	新潟	富山・金沢・福井	長岡
近畿	京都・大阪・堺・神戸	大津・奈良・和歌山	東大阪・姫路
中国	岡山・広島	鳥取・松江・山口	倉敷・呉・福山・下関
四国		松山・高松・高知・徳島	
九州	北九州・福岡・熊本	佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島	久留米・佐世保
沖縄		那覇	

千代田区・中央区・港区・新宿区・文京区・台東区・墨田区・江東区・品川区・目黒区・大田区・世田谷区・渋谷区・中野区
杉並区・豊島区・北区・荒川区・板橋区・練馬区・足立区・葛飾区・江戸川区

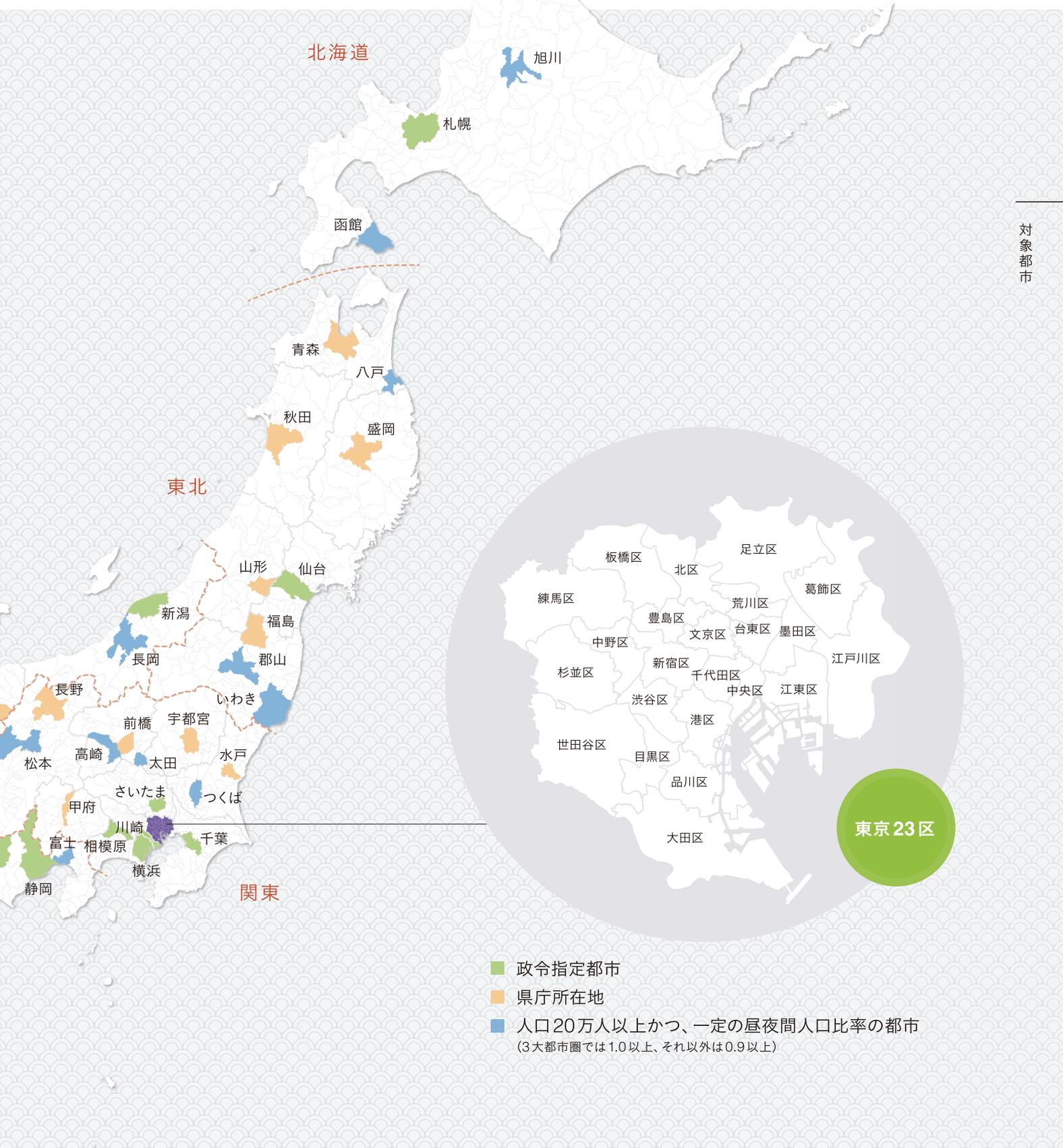
主要72都市

東京23区



ついては、
当該リストの中から、

0.9以上)の基準を満たす都市を選出した。



評価体系

Evaluation System

「日本の都市特性評価」では、都市を構成する要素として、「分野」（経済・ビジネス、研究・開発、文化・交流、生活・居住、環境、交通・アクセス）を6設定した。また、それぞれの分野において、主要な要素を表す「指標グループ」を26設定し、さらにそれらを構成する「指標」を83選定した。

分野	指標グループ	指標			
経済・ ビジネス	6 指標グループ	経済規模	1 付加価値額 2 地域内総支出 3 昼夜間人口比率		
		雇用・人材	4 従業者数 5 賃金水準 6 高等教育修了者割合 7 若手人材の転入出		
		人材の多様性	8 女性就業者割合 9 外国人就業者割合 10 高齢者就業率		
		ビジネスの活力	11 新設事業所割合 12 労働生産性 13 特区制度認定地域数		
		ビジネス環境	14 対事業所サービス従業者割合 15 新規オフィス供給面積 16 フレキシブル・ワークプレイス密度		
		財政	17 財政力指数 18 経常収支比率の低さ 19 実質公債費比率の低さ 20 将来負担比率の低さ		
	研究・ 開発	2 指標グループ	研究集積	21 学術・開発研究機関従業者割合 22 トップ大学数	
			研究開発成果	23 論文投稿数 24 グローバルニッチトップ企業数	
		文化・ 交流	5 指標グループ	ハード資源	25 観光地の数・評価 26 文化財指定件数 27 景観まちづくりへの積極度
				ソフト資源	28 イベントの数・評価 29 クリエイティブ産業従業者割合 30 文化・歴史・伝統への接触機会
	受入環境			31 宿泊施設数 32 高級宿泊施設客室数 33 イベントホール数 34 観光案内所・病院の多言語対応	
	交流実績			35 休日の人の多さ 36 行楽・観光目的の訪問の多さ 37 国際会議・展示会開催件数	
	発信実績			38 観光客誘致活動 39 自治体SNSフォロワー数 40 魅力度・認知度・観光意欲度	

分野	指標グループ	指標
----	--------	----

生活・ 居住	7 指標グループ	安全・安心	41	刑法犯認知件数の少なさ
			42	交通事故死亡者数の少なさ
			43	災害時の安全性
			44	空家率の低さ
		健康・医療	45	医師の多さ
			46	病院・診療所の多さ
			47	平均寿命・健康寿命
	育児・教育	48	合計特殊出生率	
		49	保育ニーズの充足度	
		50	子どもの医療費支援	
	市民生活・福祉	51	高偏差値高校数	
		52	外国人住民の受入体制	
	居住環境	生活利便施設	53	要支援・要介護高齢者の少なさ
			54	地域包括支援センターの多さ
生活の余裕度		55	居住環境の満足度 ^①	
		56	新規住宅供給の多さ	
		57	住宅の広さ	
		58	住宅のバリアフリー化率	
		59	小売事業所密度	
60	飲食店舗密度			
61	コンビニ密度			

環境	3 指標グループ	環境パフォーマンス	65	リサイクル率
			66	CO ₂ 排出量の少なさ
			67	再生可能エネルギー自給率
	自然環境	68	EV充電スタンドの多さ	
		69	自然環境の満足度 ^①	
		70	都市地域緑地率	
	快適性	71	水辺の充実度	
		72	年間日照時間	
		73	気温・湿度が快適な日数	
74		空気のきれいさ		

交通・ アクセス	3 指標グループ	都市内交通	75	公共交通の利便性 ^①
			76	鉄道駅・バス停密度
			77	交通渋滞の少なさ
	都市外アクセス	78	空港の利用のしやすさ	
		79	新幹線の利用のしやすさ	
		80	インターチェンジ数	
	移動の容易性	81	都市のコンパクトさ	
		82	通勤時間の短さ	
		83	駅のバリアフリー化率	

^①: アンケートに基づく指標

合計スコアの上位10都市について、分野別および指標グループ別レーダーチャートを用いてそれぞれの強みや魅力を分析した。

1 京都市

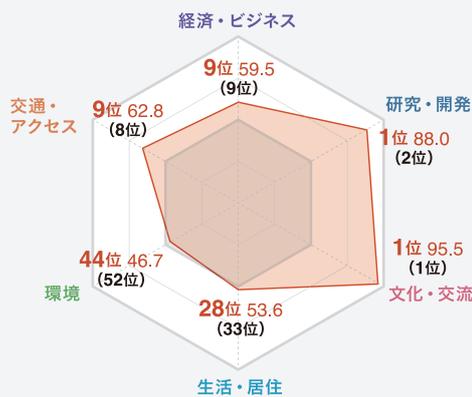
KYOTO



文化・交流の力を一段と高めた世界の文化都市

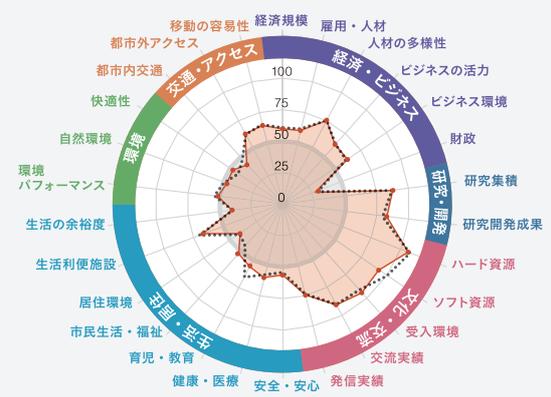
2017年より、「文化首都・京都」を目指した取り組みを推進している京都市は、今年も文化・交流で高い評価を得た。特に、「受入環境」の観光案内所・病院の多言語対応や高級宿泊施設客室数でスコアを上げた。また、研究・開発においては安定的なスコアをみせ、対象都市において最も高い評価を得た。京都市は、文化資源と知的資源の両方で突出した強みを持つ、個性的な都市といえる。

分野別の順位・偏差値（）内は昨年順位



2019 分野別偏差値
※グラフの形は偏差値を表す ● 偏差値50ライン

指標グループ別の強み・弱み



2019 指標グループ別偏差値
2018 指標グループ別偏差値 ● 偏差値50ライン

2 福岡市

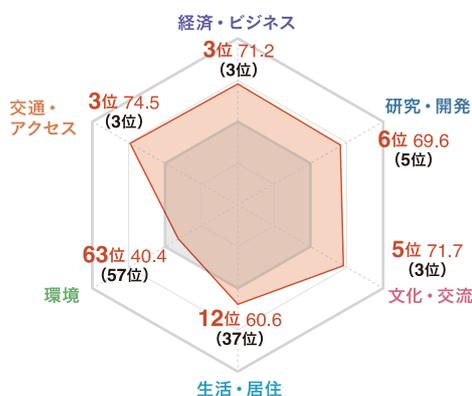
FUKUOKA



成長をつづけるバランス型都市

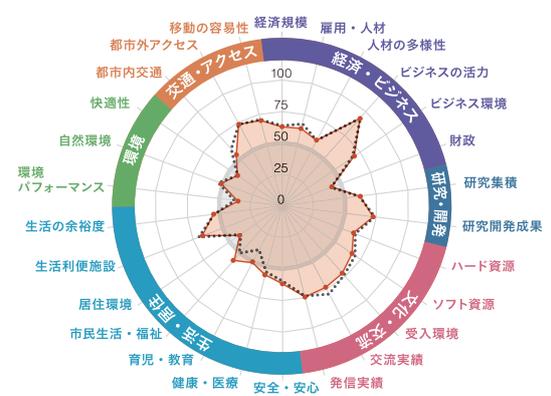
〈アジアのリーダー都市〉を目指す福岡市は、昨年と同様に経済・ビジネスで抜きんできており、なかでも「ビジネスの活力」や「ビジネス環境」において安定して高い評価を得ている。また国内有数の住みやすい街として知られるように、生活・居住でより高い評価を得、7つの指標グループのうち6つにおいてスコアが上昇した。とりわけ外国人住民の受入体制が非常に整っており、「生活の余裕度」や「安全・安心」でも高評価を獲得、人・ビジネスいずれも惹きつける寛容な都市としての魅力を有している。

分野別の順位・偏差値（）内は昨年順位



2019 分野別偏差値
※グラフの形は偏差値を表す ● 偏差値50ライン

指標グループ別の強み・弱み



2019 指標グループ別偏差値
2018 指標グループ別偏差値 ● 偏差値50ライン

3 大阪市

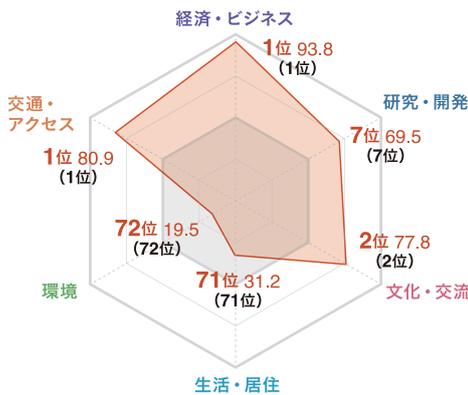
OSAKA



人とビジネスの集積と交流を誇る大阪都市圏の中心都市

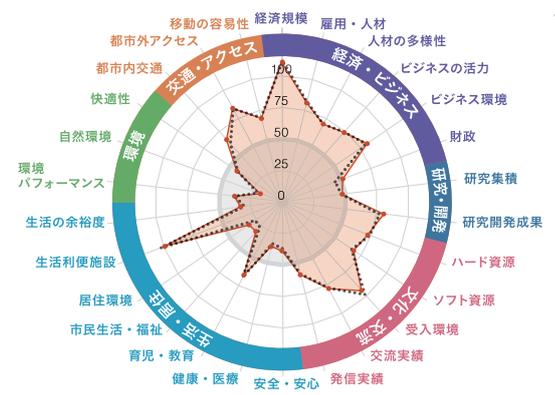
昨年に引き続き、**経済・ビジネス**、**交通・アクセス**、**文化・交流**において極めて高い評価を得た大阪。**経済**においては、「経済規模」や「雇用・人材」の規模の大きさが影響している。また、**文化・交流**においては、昨今の外国人観光客急増に対する宿泊施設の補充など課題は残るものの、「受入環境」では対象都市の中でも群を抜いている。加えて大都市圏の中心都市であることから、**交通・アクセス**における「都市外アクセス」が優れており、人や企業の集積と活発な交流を支えている。

分野別の順位・偏差値（）内は昨年順位



■ 2019分野別偏差値
※グラフの形は偏差値を表す ● 偏差値50ライン

指標グループ別の強み・弱み



■ 2019指標グループ別偏差値
● 2018指標グループ別偏差値 ● 偏差値50ライン

主要72都市
結果・分析

4 横浜市

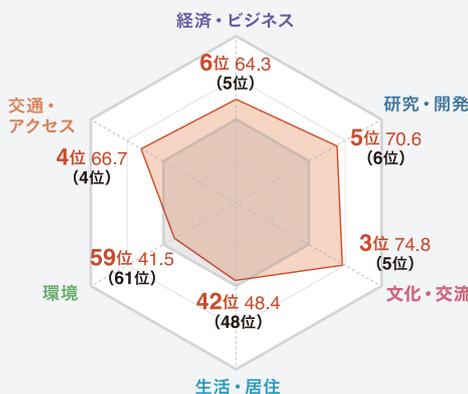
YOKOHAMA



文化観光で人を惹きつける多機能都市

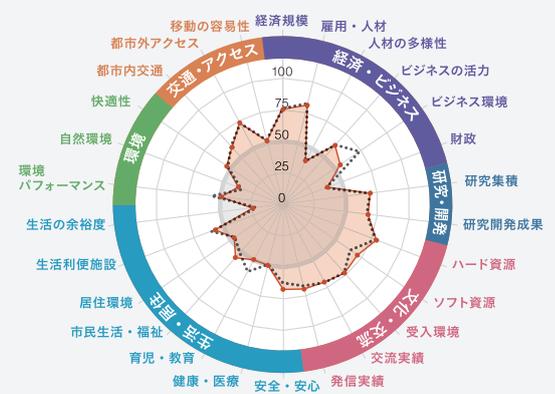
横浜市は、**文化・交流**、**交通・アクセス**、**研究・開発**、**経済・ビジネス**の4分野の評価が高く、また**生活・居住**と**環境**は、昨年より評価を高めている。**文化・交流**においては、新規指標であるクリエイティブ産業従業者割合での高評価に加え観光案内所・病院の多言語対応の指標など、「ソフト資源」と「受入環境」でスコアを伸ばしており、文化・観光政策に注力する横浜市の取り組みが、結果として評価に表れた。

分野別の順位・偏差値（）内は昨年順位



■ 2019分野別偏差値
※グラフの形は偏差値を表す ● 偏差値50ライン

指標グループ別の強み・弱み



■ 2019指標グループ別偏差値
● 2018指標グループ別偏差値 ● 偏差値50ライン

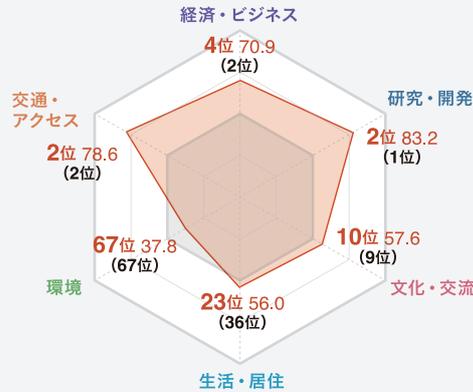
5 名古屋市

NAGOYA

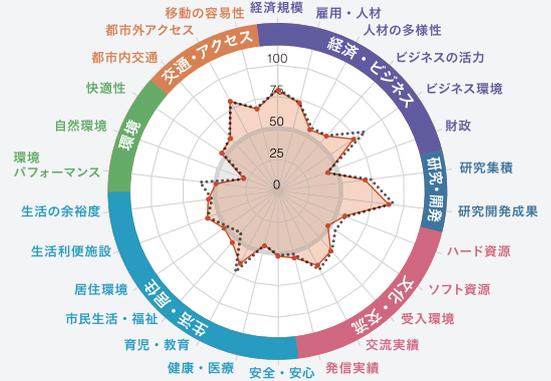
交通利便性と産業集積で発展し続ける大都市

中部圏の中枢都市である名古屋市は、**交通・アクセス**、**研究・開発**で高評価を得ている。加えて、**経済・ビジネス**の評価も対象都市の中ではトップクラスで、ものづくり産業が集積する名古屋市ならではの強さをみせた。**生活・居住**においては、多くの指標において安定した評価を誇るほか、新規指標である外国人住民の受入体制で高スコアを獲得したことで分野全体の評価が上がり、暮らしやすさの魅力を示している。

分野別の順位・偏差値（）内は昨年順位



指標グループ別の強み・弱み



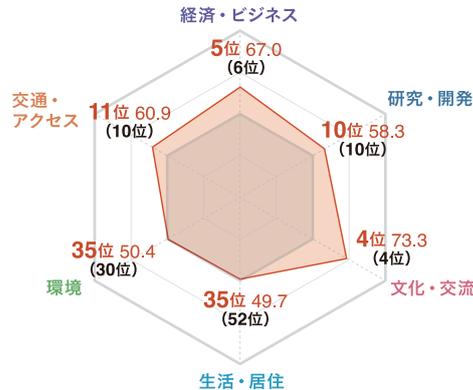
6 神戸市

KOBE

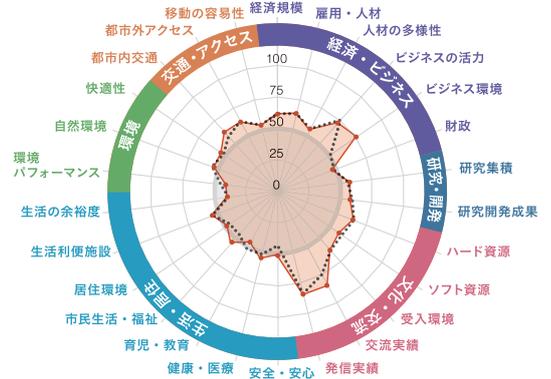
文化と経済力を誇るバランス型都市

神戸市は、**文化・交流**や**経済・ビジネス**で強みを有する上、経済規模の大きい都市では低評価になりがちな**環境**や**生活・居住**においても、平均もしくはそれ以上の評価を得ている。ここから、神戸市はバランスのとれた都市力を有しているということが分かる。なかでも**文化・交流**では、「受入環境」および「交流実績」において昨年を上回る高い評価を得た。また、大都市でありながら、**環境**における自然環境の満足度や都市地域緑地率といった「自然環境」の評価が比較的高いことから、経済的・文化的な魅力と、自然環境の魅力を併せ持った都市であることがうかがえる。

分野別の順位・偏差値（）内は昨年順位



指標グループ別の強み・弱み



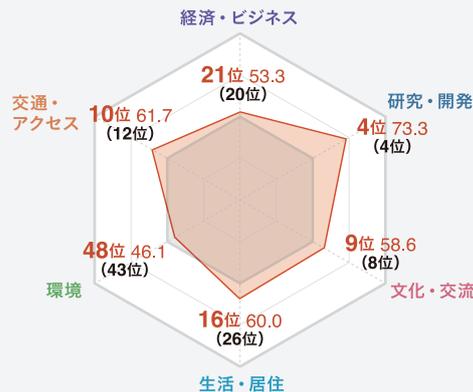
7 仙台市

SENDAI

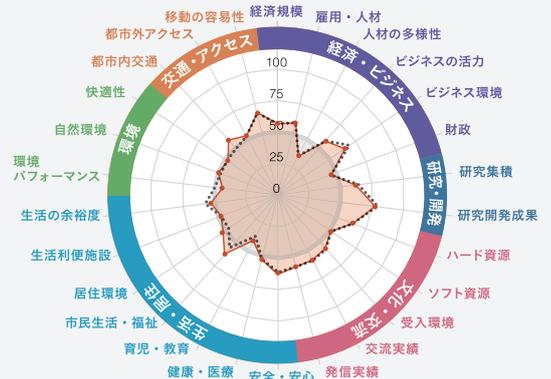
安定した都市機能を誇る杜の都

仙台市は**研究・開発**、**文化・交流**、**交通・アクセス**で非常に評価が高く、東北地方の中心都市として安定した都市機能を有している。なかでも**交通・アクセス**は、「都市内交通」と「都市外アクセス」のいずれも優れており、市内の交通利便性の高さに加えて、国内主要都市と良好なアクセスを誇る。また**生活・居住**では大きく飛躍し、全ての指標グループにおいて昨年の評価以上の伸びをみせた。特に「安全・安心」における災害時の安全性で強みをみせるとともに、「市民生活・福祉」では外国人住民の受入体制などが影響し、抜きん出ている。

分野別の順位・偏差値（）内は昨年順位



指標グループ別の強み・弱み



8 札幌市

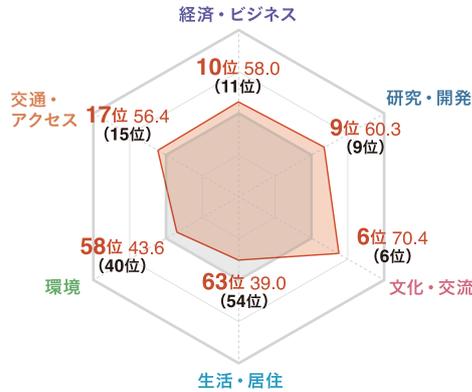
SAPPORO



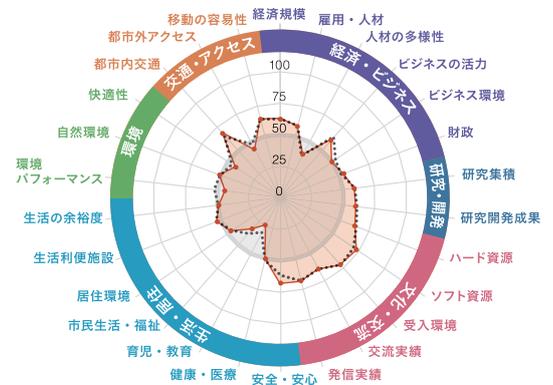
観光資源に恵まれ、充実した交通インフラを誇る大都市

国内外から多くの観光客を引きつける札幌市は、文化・交流の「受入環境」でスコアを伸ばしたほか、イベントの数・評価や魅力度・認知度・観光意欲度でも安定した強みをみせ、今年も高い評価を得た。生活・居住の「安全・安心」では、新規指標である災害時の安全性で高スコアを獲得し、それ以外の指標でもスコアの伸びが見られた。交通・アクセスにおいては、渋滞が少なく、駅やバス停が多いことから、札幌市の都市内交通が充実していることがうかがえる。これに加えて、居住者アンケートを基にした指標も高評価だったことから、観光客のみならず住民にとっても交通利便性の満足度が高い都市といえる。

分野別の順位・偏差値（）内は昨年順位



指標グループ別の強み・弱み



9 金沢市

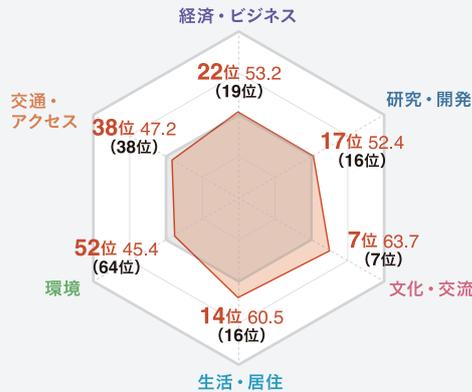
KANAZAWA



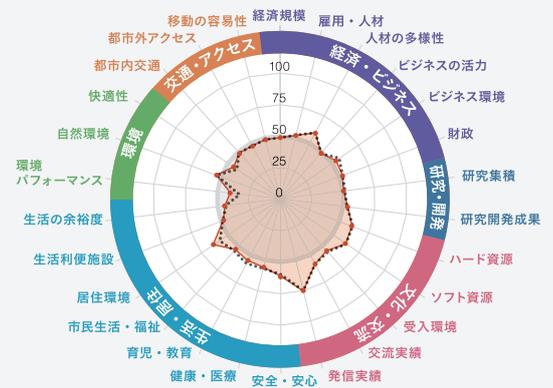
文化的土壌と住みやすさを備える大名城下町

2015年の北陸新幹線開業を契機に〈世界の交流拠点都市〉を目指す金沢市は、文化・交流において、大名城下町としての歴史や伝統に裏打ちされた固有の魅力を発揮している。文化・歴史・伝統への接触機会が豊富で「ソフト資源」に優れるほか、国内有数の認知度を誇る。加えて生活・居住が卓越しており、とりわけ「居住環境」において高評価を得た。前年と比較し伸びをみせた環境では、CO₂排出量の少なさや自然環境の満足度、空気のきれいさといった指標のスコアが高く、自然環境の保全など、「森の都」と呼ばれる金沢市ならではの取り組みが表れる結果となった。

分野別の順位・偏差値（）内は昨年順位



指標グループ別の強み・弱み



10 松本市

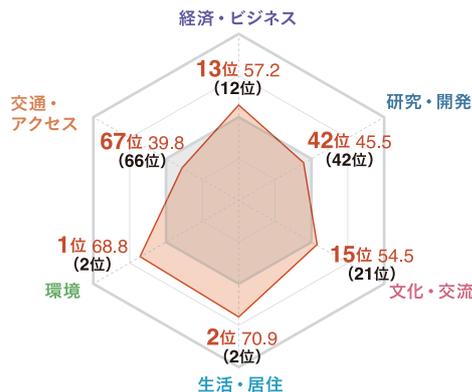
MATSUMOTO



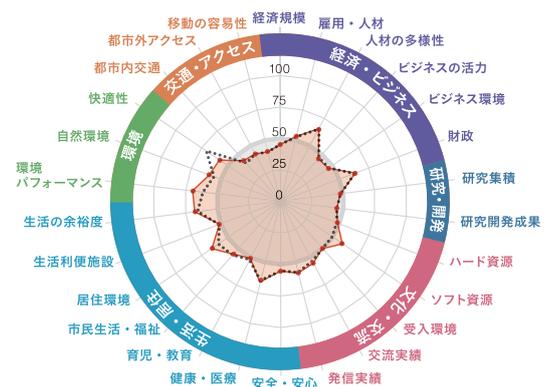
美しい自然と居住環境の豊かさが調和した岳都

〈美しく生きる。健康寿命延伸都市〉を目標として掲げる松本市は、環境および生活・居住において高い評価を得た。対象都市の中で最も高い評価を誇る環境については、自然環境の満足度や都市地域緑率が高評価で「自然環境」が強みとしてあげられる。また、生活・居住の「健康・医療」における平均寿命・健康寿命や医師の多さの評価が高かった。さらに、経済における高齢者就業率が高いことから、松本市は恵まれた自然環境と優れた居住環境の下、人々が健康的に長く活躍していることがうかがえる。

分野別の順位・偏差値（）内は昨年順位



指標グループ別の強み・弱み



分野別スコア

Function-Specific Scores

経済・ビジネス		
順位	都市名	スコア
1位	大阪市	258.5
2位	豊田市	192.0
3位	福岡市	190.9
4位	名古屋市	190.2
5位	神戸市	178.3
6位	横浜市	170.5
7位	岐阜市	160.7
8位	浜松市	157.2
9位	京都市	155.9
10位	札幌市	151.4
11位	岡山市	150.6
12位	福山市	149.8
13位	松本市	149.2
14位	川崎市	149.0
15位	つくば市	146.7
16位	さいたま市	143.5
17位	相模原市	141.4
18位	長野市	139.3
19位	大津市	139.0
20位	東大阪市	137.6
21位	仙台市	137.6
22位	金沢市	137.3
23位	姫路市	136.2
24位	静岡市	135.6
25位	佐賀市	135.4
26位	久留米市	134.8
27位	富士市	134.4
28位	高松市	133.9
29位	津市	133.6
30位	高崎市	132.0
31位 ~ 72位	函館市、旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、秋田市、山形市、福島市、郡山市、いわき市、水戸市、宇都宮市、前橋市、太田市、千葉市、新潟市、長岡市、富山市、福井市、甲府市、四日市市、堺市、奈良市、和歌山市、鳥取市、松江市、倉敷市、広島市、呉市、下関市、山口市、徳島市、松山市、高知市、北九州市、長崎市、佐世保市、熊本市、大分市、宮崎市、鹿児島市、那覇市	(市区町村コード順)

研究・開発		
順位	都市名	スコア
1位	京都市	102.7
2位	名古屋市	92.2
3位	つくば市	91.3
4位	仙台市	70.3
5位	横浜市	64.2
6位	福岡市	62.1
7位	大阪市	61.8
8位	広島市	44.1
9位	札幌市	41.5
10位	神戸市	37.0
11位	北九州市	34.5
12位	千葉市	32.4
13位	岡山市	27.1
14位	宇都宮市	25.9
15位	函館市	25.2
16位	新潟市	25.1
17位	金沢市	23.8
18位	浜松市	22.4
19位	川崎市	20.8
20位	さいたま市	19.3
21位	相模原市	17.9
22位	静岡市	17.7
23位	秋田市	17.4
24位	堺市	15.4
25位	熊本市	15.3
26位	長崎市	14.3
27位	長岡市	13.4
28位	鹿児島市	12.2
29位	高松市	11.8
30位	大津市	11.7
31位 ~ 72位	旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、山形市、福島市、郡山市、いわき市、水戸市、前橋市、高崎市、太田市、富山市、福井市、甲府市、長野市、松本市、岐阜市、富士市、豊田市、津市、四日市市、東大阪市、姫路市、奈良市、和歌山市、鳥取市、松江市、倉敷市、呉市、福山市、下関市、山口市、徳島市、松山市、高知市、久留米市、佐賀市、佐世保市、大分市、宮崎市、那覇市	(市区町村コード順)

文化・交流		
順位	都市名	スコア
1位	京都市	372.5
2位	大阪市	268.4
3位	横浜市	250.8
4位	神戸市	241.8
5位	福岡市	232.0
6位	札幌市	224.9
7位	金沢市	185.0
8位	函館市	159.3
9位	仙台市	155.2
10位	名古屋市	149.6
11位	長崎市	145.3
12位	奈良市	144.1
13位	広島市	141.9
14位	那覇市	141.8
15位	松本市	131.4
16位	北九州市	123.6
17位	熊本市	119.3
18位	浜松市	117.0
19位	姫路市	116.1
20位	静岡市	115.8
21位	倉敷市	115.2
22位	高松市	107.6
23位	松江市	104.9
24位	佐世保市	103.7
25位	松山市	103.6
26位	長野市	100.4
27位	宮崎市	99.7
28位	水戸市	99.4
29位	千葉市	98.8
30位	鹿児島市	98.3
31位 ~ 72位	旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、秋田市、山形市、福島市、郡山市、いわき市、つくば市、宇都宮市、前橋市、高崎市、太田市、さいたま市、川崎市、相模原市、新潟市、長岡市、富山市、福井市、甲府市、岐阜市、富士市、豊田市、四日市市、大津市、堺市、東大阪市、和歌山市、鳥取市、岡山市、呉市、福山市、下関市、山口市、徳島市、高知市、久留米市、佐賀市、大分市	(市区町村コード順)

生活・居住		
順位	都市名	スコア
1位	豊田市	374.1
2位	松本市	371.6
3位	長野市	363.8
4位	前橋市	355.6
5位	山形市	353.0
6位	高崎市	348.2
7位	鳥取市	346.9
8位	甲府市	345.6
9位	浜松市	345.2
10位	富山市	345.0
11位	熊本市	342.2
12位	福岡市	342.0
13位	福井市	341.7
14位	金沢市	341.7
15位	奈良市	340.6
16位	仙台市	340.3
17位	つくば市	337.5
18位	佐賀市	336.9
19位	久留米市	336.5
20位	さいたま市	334.0
21位	静岡市	331.0
22位	鹿児島市	330.6
23位	名古屋市	329.0
24位	四日市市	326.4
25位	岐阜市	325.1
26位	津市	323.2
27位	福島市	323.1
28位	京都市	322.0
29位	太田市	321.4
30位	広島市	316.6
31位 ~ 72位	札幌市、函館市、旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、秋田市、郡山市、いわき市、水戸市、宇都宮市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、長岡市、富士市、大津市、大阪市、堺市、東大阪市、神戸市、姫路市、和歌山市、松江市、岡山市、倉敷市、呉市、福山市、下関市、山口市、徳島市、高松市、松山市、高知市、北九州市、長崎市、佐世保市、大分市、宮崎市、那覇市	(市区町村コード順)

環境

順位	都市名	スコア
1位	松本市	185.3
2位	高知市	183.7
3位	宮崎市	183.4
4位	浜松市	182.7
5位	津市	180.9
6位	いわき市	180.2
7位	呉市	179.8
8位	松江市	177.5
9位	前橋市	175.0
10位	豊田市	174.4
11位	山口市	173.0
12位	下関市	170.5
13位	佐賀市	170.2
14位	佐世保市	168.6
15位	松山市	166.7
16位	鳥取市	164.3
17位	つくば市	163.5
18位	高松市	162.4
19位	徳島市	160.8
20位	富山市	160.3
21位	高崎市	160.0
22位	甲府市	158.1
23位	岐阜市	158.1
24位	鹿児島市	158.1
25位	静岡市	158.0
26位	長崎市	156.5
27位	長野市	156.4
28位	姫路市	156.2
29位	大分市	155.4
30位	大津市	155.0
31位 72位	札幌市、函館市、旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、仙台市、秋田市、山形市、福島市、郡山市、水戸市、宇都宮市、太田市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、長岡市、金沢市、福井市、富士市、名古屋市、四日市市、京都市、大阪市、堺市、東大阪市、神戸市、奈良市、和歌山市、岡山市、倉敷市、広島市、福山市、北九州市、福岡市、久留米市、熊本市、那覇市	(市区町村コード順)

交通・アクセス

順位	都市名	スコア
1位	大阪市	204.8
2位	名古屋市	198.9
3位	福岡市	188.8
4位	横浜市	169.3
5位	川崎市	168.5
6位	北九州市	162.6
7位	東大阪市	160.2
8位	那覇市	159.9
9位	京都市	159.5
10位	仙台市	156.8
11位	神戸市	154.9
12位	さいたま市	152.5
13位	堺市	152.4
14位	千葉市	152.3
15位	鹿児島市	146.3
16位	岐阜市	144.9
17位	札幌市	143.7
18位	相模原市	141.9
19位	奈良市	141.9
20位	広島市	141.6
21位	豊田市	140.1
22位	四日市市	139.9
23位	大津市	138.5
24位	静岡市	138.4
25位	函館市	136.8
26位	久留米市	133.8
27位	長崎市	129.2
28位	前橋市	127.8
29位	新潟市	124.8
30位	つくば市	123.9
31位 72位	旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、秋田市、山形市、福島市、郡山市、いわき市、水戸市、宇都宮市、高崎市、太田市、長岡市、富山市、金沢市、福井市、甲府市、長野市、松本市、浜松市、富士市、津市、姫路市、和歌山市、鳥取市、松江市、岡山市、倉敷市、呉市、福山市、下関市、山口市、徳島市、高松市、松山市、高知市、佐賀市、佐世保市、熊本市、大分市、宮崎市	(市区町村コード順)

合計スコア

順位	都市名	スコア
1位	京都市	1,258.0
2位	福岡市	1,149.8
3位	大阪市	1,147.9
4位	横浜市	1,098.0
5位	名古屋市	1,089.0
6位	神戸市	1,074.9
7位	仙台市	1,004.5
8位	札幌市	981.6
9位	金沢市	951.5
10位	松本市	948.2
11位	つくば市	947.2
12位	豊田市	935.8
13位	浜松市	935.3
14位	広島市	921.5
15位	静岡市	896.5
16位	奈良市	893.0
17位	北九州市	883.4
18位	長野市	876.0
19位	鹿児島市	875.9
20位	岐阜市	875.2
21位	さいたま市	872.2
22位	熊本市	867.1
23位	岡山市	850.2
24位	長崎市	846.6
25位	函館市	840.9
26位	前橋市	840.6
27位	富山市	839.3
28位	大津市	839.2
29位	高松市	836.7
30位	千葉市	835.1
31位 72位	旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、秋田市、山形市、福島市、郡山市、いわき市、水戸市、宇都宮市、高崎市、太田市、川崎市、相模原市、新潟市、長岡市、福井市、甲府市、富士市、津市、四日市市、堺市、東大阪市、姫路市、和歌山市、鳥取市、松江市、倉敷市、呉市、福山市、下関市、山口市、徳島市、松山市、高知市、久留米市、佐賀市、佐世保市、大分市、宮崎市、那覇市	(市区町村コード順)

主要72都市
分野別スコア

アクター別スコア

Actor-Specific Scores

分野別に加え、都市の特性を「人」の視点で評価するために、本調査では「アクター」（シングル、ファミリー、シニア、経営者、従業者、観光客）を6設定した。アクター別スコアの算出のために、まずは各アクターが都市に求めるニーズを設定し、次に、83指標の中からそのニーズに対応した指標を抽出し、その平均値をスコアとした。

シングル 指標数20/83



順位	都市名	スコア
1位	福岡市	53.4
2位	名古屋市	52.2
3位	熊本市	48.6
4位	鹿児島市	48.5
5位	大阪市	48.5
6位	北九州市	47.2
7位	京都市	47.2
8位	豊田市	47.0
9位	奈良市	46.9
10位	広島市	46.8
11位	静岡市	46.7
12位	松本市	46.7
13位	神戸市	46.7
14位	久留米市	46.4
15位	浜松市	46.4
16位	岐阜市	46.2
17位	津市	46.1
18位	甲府市	46.0
19位	横浜市	45.4
20位	高崎市	45.4
21位	佐賀市	45.1
22位	仙台市	45.0
23位	那覇市	44.9
24位	前橋市	44.5
25位	松山市	44.4
26位	岡山市	44.2
27位	宮崎市	44.1
28位	川崎市	43.9
29位	高松市	43.5
30位	四日市市	43.3

札幌市、函館市、旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、秋田市、山形市、福島市、郡山市、いわき市、水戸市、つくば市、宇都宮市、太田市、さいたま市、千葉市、相模原市、新潟市、長岡市、富山市、金沢市、福井市、長野市、富士市、大津市、堺市、東大阪市、姫路市、和歌山市、鳥取市、松江市、倉敷市、呉市、福山市、下関市、山口市、徳島市、高知市、長崎市、佐世保市、大分市

(市区町村コード順)

ファミリー 指標数38/83



順位	都市名	スコア
1位	福岡市	53.1
2位	鹿児島市	51.5
3位	前橋市	51.2
4位	名古屋市	50.6
5位	松本市	50.4
6位	豊田市	50.3
7位	浜松市	49.9
8位	岐阜市	49.8
9位	久留米市	49.6
10位	富山市	49.5
11位	仙台市	49.5
12位	つくば市	49.4
13位	京都市	49.3
14位	北九州市	49.1
15位	奈良市	49.0
16位	津市	48.8
17位	静岡市	48.6
18位	高崎市	48.5
19位	熊本市	48.4
20位	神戸市	48.2
21位	金沢市	48.1
22位	横浜市	47.7
23位	甲府市	47.6
24位	佐賀市	47.6
25位	長野市	47.6
26位	高松市	47.6
27位	長崎市	47.2
28位	松江市	47.0
29位	鳥取市	47.0
30位	松山市	46.7

札幌市、函館市、旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、秋田市、山形市、福島市、郡山市、いわき市、水戸市、宇都宮市、太田市、さいたま市、千葉市、川崎市、相模原市、新潟市、長岡市、福井市、富士市、四日市市、大津市、大阪市、堺市、東大阪市、姫路市、和歌山市、岡山市、倉敷市、広島市、呉市、福山市、下関市、山口市、徳島市、高知市、佐世保市、大分市、宮崎市、那覇市

(市区町村コード順)

シニア 指標数34/83



順位	都市名	スコア
1位	松本市	53.3
2位	仙台市	53.1
3位	福岡市	52.9
4位	豊田市	51.6
5位	前橋市	50.8
6位	浜松市	50.5
7位	静岡市	50.2
8位	長野市	49.8
9位	鹿児島市	49.8
10位	広島市	49.3
11位	宮崎市	49.3
12位	神戸市	49.2
13位	京都市	49.2
14位	高崎市	49.1
15位	金沢市	49.0
16位	つくば市	48.9
17位	長崎市	48.9
18位	富山市	48.9
19位	熊本市	48.9
20位	奈良市	48.6
21位	横浜市	48.4
22位	岐阜市	48.2
23位	札幌市	48.0
24位	松江市	47.9
25位	名古屋市	47.9
26位	久留米市	47.9
27位	佐賀市	47.8
28位	甲府市	47.6
29位	津市	47.5
30位	北九州市	47.3

函館市、旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、秋田市、山形市、福島市、郡山市、いわき市、水戸市、宇都宮市、太田市、さいたま市、千葉市、川崎市、相模原市、新潟市、長岡市、福井市、富士市、四日市市、大津市、大阪市、堺市、東大阪市、姫路市、和歌山市、鳥取市、岡山市、倉敷市、呉市、福山市、下関市、山口市、徳島市、高松市、松江市、高知市、佐世保市、大分市、那覇市

(市区町村コード順)

経営者

指標数34/83



順位	都市名	スコア
1位	大阪市	52.1
2位	福岡市	40.6
3位	名古屋市	40.4
4位	京都市	38.9
5位	横浜市	36.8
6位	神戸市	35.8
7位	札幌市	33.0
8位	豊田市	32.3
9位	仙台市	30.9
10位	浜松市	28.5
11位	川崎市	28.5
12位	広島市	28.4
13位	さいたま市	27.5
14位	岐阜市	27.4
15位	岡山市	27.4
16位	金沢市	27.2
17位	つくば市	27.0
18位	大津市	26.9
19位	松本市	26.8
20位	福山市	26.5
21位	静岡市	26.1
22位	相模原市	25.9
23位	鹿児島市	25.6
24位	北九州市	25.6
25位	津市	25.0
26位	四日市市	24.8
27位	東大阪市	24.7
28位	姫路市	24.7
29位	宇都宮市	24.6
30位	高松市	24.5

31位
} 72位

函館市、旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、秋田市、山形市、福島市、郡山市、いわき市、水戸市、前橋市、高崎市、太田市、千葉市、新潟市、長岡市、富山市、福井市、甲府市、長野市、富士市、堺市、奈良市、和歌山市、鳥取市、松江市、倉敷市、呉市、下関市、山口市、徳島市、松山市、高知市、久留米市、佐賀市、長崎市、佐世保市、熊本市、大分市、宮崎市、那覇市

(市区町村コード順)

従業者

指標数17/83



順位	都市名	スコア
1位	大阪市	51.5
2位	名古屋市	41.8
3位	福岡市	38.9
4位	京都市	37.3
5位	神戸市	33.8
6位	横浜市	33.5
7位	岐阜市	33.3
8位	川崎市	32.8
9位	久留米市	32.5
10位	広島市	32.4
11位	鹿児島市	32.0
12位	津市	31.8
13位	北九州市	31.4
14位	豊田市	31.2
15位	東大阪市	30.9
16位	佐賀市	30.1
17位	富山市	30.0
18位	下関市	29.8
19位	福井市	29.7
20位	岡山市	29.6
21位	金沢市	29.4
22位	熊本市	29.4
23位	浜松市	29.0
24位	高崎市	28.7
25位	四日市市	28.7
26位	長崎市	28.7
27位	高知市	28.5
28位	札幌市	28.4
29位	静岡市	28.4
30位	松本市	28.4

31位
} 72位

函館市、旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、仙台市、秋田市、山形市、福島市、郡山市、いわき市、水戸市、つくば市、宇都宮市、前橋市、太田市、さいたま市、千葉市、相模原市、新潟市、長岡市、甲府市、長野市、富士市、大津市、堺市、姫路市、奈良市、和歌山市、鳥取市、松江市、倉敷市、呉市、福山市、山口市、徳島市、高松市、松山市、佐世保市、大分市、宮崎市、那覇市

(市区町村コード順)

観光客

指標数32/83



順位	都市名	スコア
1位	京都市	59.5
2位	大阪市	49.6
3位	横浜市	49.5
4位	福岡市	47.3
5位	神戸市	47.2
6位	札幌市	42.7
7位	名古屋市	38.6
8位	金沢市	37.2
9位	仙台市	37.0
10位	奈良市	36.9
11位	広島市	36.6
12位	函館市	36.3
13位	長崎市	36.2
14位	那覇市	35.6
15位	浜松市	33.2
16位	北九州市	33.1
17位	静岡市	32.8
18位	松本市	32.7
19位	鹿児島市	32.2
20位	千葉市	31.7
21位	松江市	31.5
22位	大津市	31.2
23位	熊本市	31.1
24位	姫路市	30.9
25位	高松市	30.9
26位	佐世保市	30.7
27位	倉敷市	30.6
28位	さいたま市	30.3
29位	宮崎市	30.0
30位	つくば市	29.7

31位
} 72位

旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、秋田市、山形市、福島市、郡山市、いわき市、水戸市、宇都宮市、前橋市、高崎市、太田市、川崎市、相模原市、新潟市、長岡市、富山市、福井市、甲府市、長野市、岐阜市、富士市、豊田市、津市、四日市市、堺市、東大阪市、和歌山市、鳥取市、岡山市、呉市、福山市、下関市、山口市、徳島市、松山市、高知市、久留米市、佐賀市、大分市

(市区町村コード順)

合計スコアの上位3区について、分野別および指標グループ別レーダーチャートを用いてそれぞれの強みや魅力を分析した。

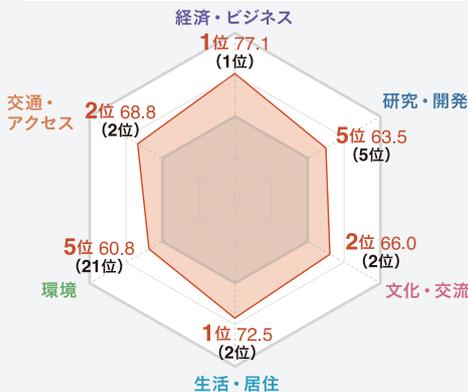
1 千代田区

CHIYODA-CITY

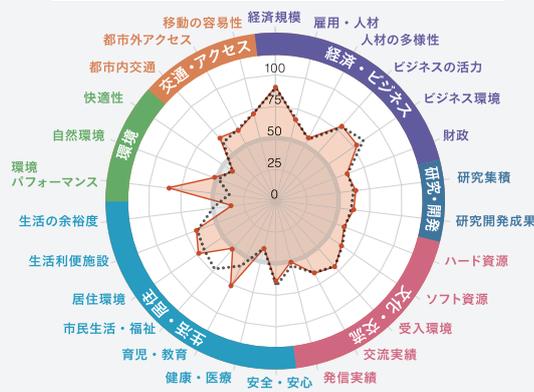
多分野で優れた東京の中心都市

立法・司法・行政の三権の拠点であり、江戸時代の歴史や文化を色濃く残す千代田区は、**経済・ビジネス**、**生活・居住**をはじめ**文化・交流**、**交通・アクセス**で強さを誇っている。特に**生活・居住**は「健康・医療」、「居住環境」などのスコア上昇が昨年度を上回る高い評価につながり、子供から高齢者まで住みやすいまちを目指す区の姿勢がうかがえる結果となった。加えて自然環境に対する市民の満足度が高まったことから、**環境**における評価が飛躍した。

分野別の順位・偏差値 ()内は昨年順位



指標グループ別の強み・弱み



2 港区

MINATO-CITY

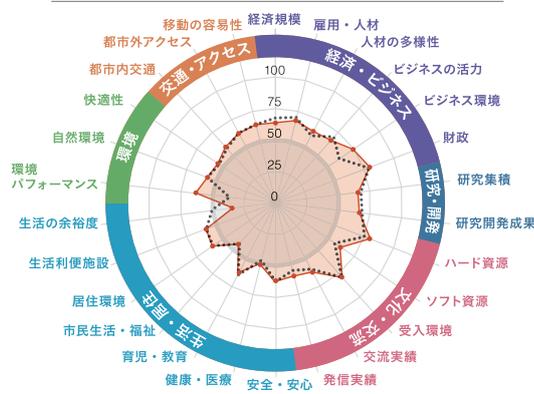
文化、経済を筆頭に進化を続けるバランス型都市

港区は前年度に引き続き6分野すべてにおいて、バランス良く高い評価を得ている。**経済・ビジネス**、**文化・交流**では突出した強みを有し、**文化・交流**ではほとんどの指標グループでスコアが上昇した。なかでも新規指標であるクリエイティブ産業従業者割合のスコアが全都市中最も高い。今年度はさらに**生活・居住**の「市民生活・福祉」や「育児・教育」や、**環境**の「環境パフォーマンス」を筆頭にスコアを伸ばしており、「港区生まれ、港区育ち」の増加という目標達成にむけ、総合的なバランス型都市へと進化を続けている。

分野別の順位・偏差値 ()内は昨年順位



指標グループ別の強み・弱み



3 中央区

CHUO-CITY

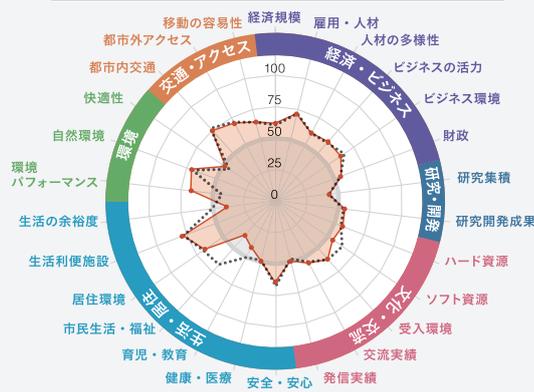
交通利便性と豊かな自然環境を誇る活気に満ちた街

交通・アクセスを筆頭に、**生活・居住**、**環境**、そして**経済・ビジネス**において上位を占める中央区は、都心に位置しながら生活のしやすい都市である。昨年と比べ**経済・ビジネス**の「雇用・人材」や**生活・居住**の「健康・医療」で伸びをみせた。なかでも**環境**において成長を続けており、「環境パフォーマンス」における再生可能エネルギー自給率の高さや、「自然環境」における市民の自然環境の満足度の高さが顕著で、「水とみどりあふれる豊かな環境を未来へつなぐまち」という区の基本政策の影響がうかがえる。

分野別の順位・偏差値 ()内は昨年順位



指標グループ別の強み・弱み



分野別スコア

Function-Specific Scores

経済・ビジネス		
順位	都市名	スコア
1位	千代田区	437.0
2位	港区	396.8
3位	中央区	346.0
4位	渋谷区	312.7
5位	新宿区	285.6
6位	品川区	248.3
7位	豊島区	242.5
8位	江東区	234.9
9位	文京区	228.4
10位	台東区	226.0
11位	目黒区	222.9
12位	中野区	213.5
13位	杉並区	197.3
14位	世田谷区	195.8
15位	大田区	190.0
16位 〜 23位	墨田区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区 (市区町村コード順)	

研究・開発		
順位	都市名	スコア
1位	文京区	85.8
2位	新宿区	75.2
3位	目黒区	69.0
4位	港区	66.1
5位	千代田区	57.7
6位	中央区	17.3
7位	世田谷区	15.4
8位	豊島区	14.5
9位	渋谷区	13.7
10位	荒川区	11.7
11位	板橋区	11.6
12位	練馬区	11.3
13位	大田区	11.2
14位	江東区	11.2
15位	葛飾区	9.3
16位 〜 23位	台東区、墨田区、品川区、中野区、杉並区、北区、足立区、江戸川区 (市区町村コード順)	

文化・交流		
順位	都市名	スコア
1位	港区	215.9
2位	千代田区	194.3
3位	新宿区	178.6
4位	渋谷区	175.3
5位	台東区	171.2
6位	文京区	154.2
7位	江東区	148.1
8位	中央区	148.1
9位	墨田区	126.3
10位	品川区	116.4
11位	豊島区	113.9
12位	世田谷区	94.3
13位	目黒区	83.5
14位	大田区	80.0
15位	葛飾区	79.0
16位 〜 23位	中野区、杉並区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、江戸川区 (市区町村コード順)	

生活・居住		
順位	都市名	スコア
1位	千代田区	375.0
2位	中央区	370.1
3位	文京区	342.4
4位	港区	337.7
5位	渋谷区	337.0
6位	新宿区	321.7
7位	世田谷区	307.4
8位	品川区	307.1
9位	杉並区	303.8
10位	豊島区	300.4
11位	目黒区	297.1
12位	板橋区	291.1
13位	荒川区	290.8
14位	台東区	285.8
15位	練馬区	282.6
16位 〜 23位	墨田区、江東区、大田区、中野区、北区、足立区、葛飾区、江戸川区 (市区町村コード順)	

環境		
順位	都市名	スコア
1位	江東区	143.9
2位	中央区	141.3
3位	江戸川区	128.2
4位	港区	127.5
5位	千代田区	126.7
6位	大田区	116.8
7位	練馬区	114.1
8位	葛飾区	113.9
9位	杉並区	112.0
10位	品川区	111.7
11位	墨田区	111.4
12位	荒川区	109.6
13位	世田谷区	107.8
14位	足立区	107.8
15位	文京区	103.7
16位 〜 23位	新宿区、台東区、目黒区、渋谷区、中野区、豊島区、北区、板橋区 (市区町村コード順)	

交通・アクセス		
順位	都市名	スコア
1位	中央区	225.1
2位	千代田区	219.7
3位	港区	208.6
4位	渋谷区	203.8
5位	品川区	202.0
6位	台東区	197.7
7位	文京区	197.1
8位	新宿区	196.5
9位	江東区	194.0
10位	目黒区	190.4
11位	大田区	188.4
12位	豊島区	186.7
13位	荒川区	181.6
14位	墨田区	180.2
15位	中野区	179.0
16位 〜 23位	世田谷区、杉並区、北区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区 (市区町村コード順)	

合計スコア		
順位	都市名	スコア
1位	千代田区	1,410.4
2位	港区	1,352.7
3位	中央区	1,247.9
4位	新宿区	1,160.2
5位	渋谷区	1,138.7
6位	文京区	1,111.6
7位	江東区	1,000.2
8位	品川区	993.9
9位	台東区	985.2
10位	目黒区	962.5
11位	豊島区	940.5
12位	世田谷区	895.6
13位	墨田区	879.0
14位	大田区	863.6
15位	杉並区	858.4
16位 〜 23位	中野区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区 (市区町村コード順)	

東京23区 結果・分析 / 分野別スコア

アクター別スコア

Actor-Specific Scores

分野別に加え、都市の特性を「人」の視点で評価するために、本調査では「アクター」(シングル、ファミリー、シニア、経営者、従業者、観光客)を6設定した。アクター別スコアの算出のために、まずは各アクターが都市に求めるニーズを設定し、次に、83指標の中からそのニーズに対応した指標を抽出し、その平均値をスコアとした。

シングル 指標数20/83



順位	都市名	スコア
1位	中央区	64.8
2位	千代田区	61.2
3位	港区	56.7
4位	渋谷区	53.8
5位	文京区	51.6
6位	新宿区	51.6
7位	台東区	51.4
8位	品川区	49.6
9位	目黒区	49.2
10位	豊島区	48.5
11位	杉並区	46.0
12位	世田谷区	46.0
13位	大田区	44.8
14位	荒川区	44.6
15位	墨田区	44.2
16位	江東区、中野区、北区、板橋区、練馬区、足立区、 葛飾区、江戸川区 (市区町村コード順)	23位

ファミリー 指標数38/83



順位	都市名	スコア
1位	中央区	55.5
2位	千代田区	53.2
3位	港区	52.4
4位	文京区	49.4
5位	渋谷区	48.4
6位	新宿区	48.0
7位	品川区	47.3
8位	杉並区	46.4
9位	目黒区	45.9
10位	江東区	45.7
11位	世田谷区	45.6
12位	台東区	45.3
13位	大田区	44.9
14位	荒川区	44.4
15位	豊島区	44.2
16位	墨田区、中野区、北区、板橋区、練馬区、足立区、 葛飾区、江戸川区 (市区町村コード順)	23位

シニア 指標数34/83



順位	都市名	スコア
1位	中央区	61.9
2位	千代田区	58.2
3位	港区	54.9
4位	文京区	54.4
5位	渋谷区	52.6
6位	新宿区	50.6
7位	品川区	50.6
8位	目黒区	49.8
9位	台東区	49.5
10位	江東区	48.8
11位	世田谷区	47.4
12位	荒川区	47.4
13位	杉並区	47.1
14位	大田区	46.7
15位	墨田区	46.5
16位	中野区、豊島区、北区、板橋区、練馬区、足立区、 葛飾区、江戸川区 (市区町村コード順)	23位

経営者 指標数34/83

指標数34/83



順位	都市名	スコア
1位	千代田区	66.9
2位	港区	62.6
3位	中央区	54.6
4位	渋谷区	48.3
5位	新宿区	46.6
6位	文京区	42.8
7位	品川区	41.2
8位	江東区	41.0
9位	目黒区	39.8
10位	豊島区	39.2
11位	台東区	37.7
12位	中野区	35.3
13位	世田谷区	34.0
14位	大田区	33.8
15位	杉並区	33.4
16位	墨田区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、 葛飾区、江戸川区 (市区町村コード順)	23位

従業者 指標数17/83

指標数17/83



順位	都市名	スコア
1位	中央区	71.3
2位	千代田区	64.4
3位	港区	62.1
4位	新宿区	56.5
5位	渋谷区	56.2
6位	台東区	54.6
7位	豊島区	50.3
8位	品川区	47.3
9位	文京区	46.5
10位	目黒区	44.3
11位	荒川区	44.2
12位	墨田区	44.2
13位	中野区	43.5
14位	江東区	41.6
15位	大田区	39.4
16位	世田谷区、杉並区、北区、板橋区、練馬区、 足立区、葛飾区、江戸川区 (市区町村コード順)	23位

観光客 指標数32/83

指標数32/83



順位	都市名	スコア
1位	港区	49.6
2位	中央区	48.5
3位	千代田区	47.8
4位	新宿区	42.5
5位	台東区	42.3
6位	渋谷区	41.9
7位	江東区	40.2
8位	文京区	39.2
9位	品川区	36.3
10位	墨田区	34.6
11位	豊島区	32.4
12位	世田谷区	31.5
13位	目黒区	31.2
14位	大田区	30.9
15位	杉並区	28.8
16位	中野区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、 葛飾区、江戸川区 (市区町村コード順)	23位

訪日外国人の都市間動態分析

～モバイル空間統計®データ分析～

1 背景と目的

日本の総人口は2008年をピークに減少を始めており、今後もさらなる人口減少が見込まれている。一方で、訪日外国人観光客は増加の一途を辿り、今後も大幅な増加が見込まれている。そのような状況において、日本の各都道府県における主要都市が活力を維持し続けるための一つの鍵は、拡大が確実視されている世界交流人口を取り込み、

それらの都市間でダイナミックな対流を起こすことである。そこで、当調査では、今後の各都市の観光戦略立案に資することを目的として、JPC対象都市を起点とした時の訪日外国人観光客の都市間動態の現状を可視化することで、観光という視点での各都市の可能性や課題を明らかにする。

2 調査・分析手法

訪日外国人観光客の都市間動態分析を行うにあたっては、株式会社ドコモ・インサイトマーケティングが提供している「モバイル空間統計」を活用する。モバイル空間統計とは、株式会社NTTドコモの携帯電話ネットワークのしくみを使用して作成される人口の位置情報を持つ統計情報であり、1時間ごとの人口のおおまかな位置を、24時間365日把握しているデータである。

- データ種別：ドコモ・インサイトマーケティング モバイル空間統計
- 対象期間：2018年1月～12月の1年間
- エリア粒度：東京23区は1都市として集計し、
その他の都市は市単位で集計
- 対象人口：訪日外国人(居住者は含まず)

3 対象都市の抽出

対象都市の抽出は、以下の2つの手順で行った。

- 1) JPC対象72都市に東京23区を加えた73都市のうち、訪日外国人の年間延べ滞在日数の上位20都市を抽出する。
- 2) 1)で抽出された上位20都市の立地と、JPCで定義している10の地域とを照合したところ、分析対象に含まれない地域が2地域(東北および四国)あったため、当該2地域での外国人年間訪問者数が最も多い仙台市と高松市の2都市を追加した。

対象都市

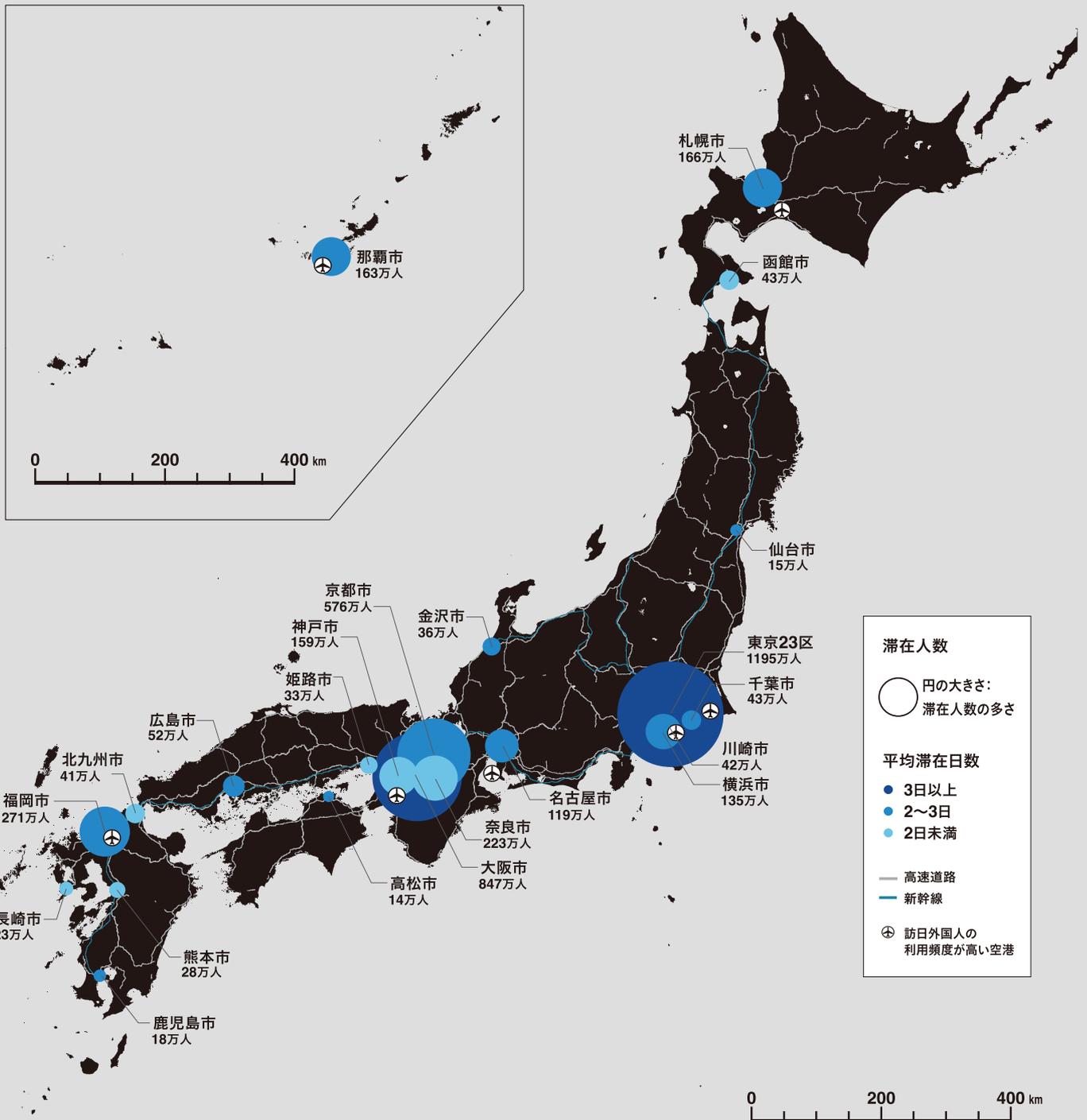
東京23区、大阪、京都、福岡、札幌、那覇、横浜、名古屋、
神戸、奈良、広島、川崎、千葉、函館、北九州、金沢、鹿児島、
熊本、長崎、姫路、仙台、高松の合計22都市



本調査の詳細な結果は、「日本の都市特性評価 DATABOOK 2019」(2019年9月発刊予定)に掲載している。
「モバイル空間統計®」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。

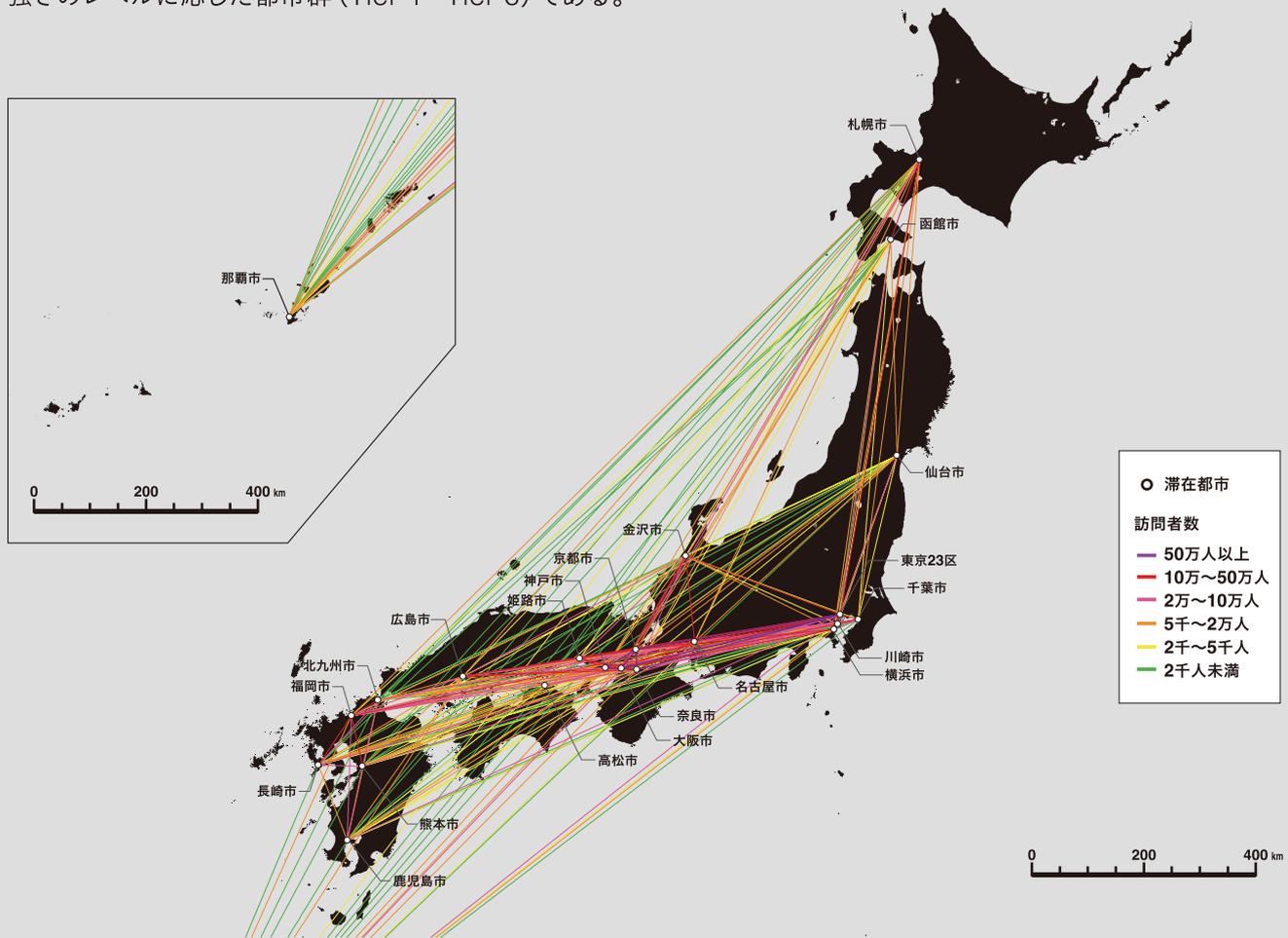
滞在都市分析

2018年1月～12月の1年間に、対象22都市に滞在した外国人訪問者数(実人数)を市単位で集計することで、年間の外国人訪問者総数およびその規模の違いを相対的に明らかにした。



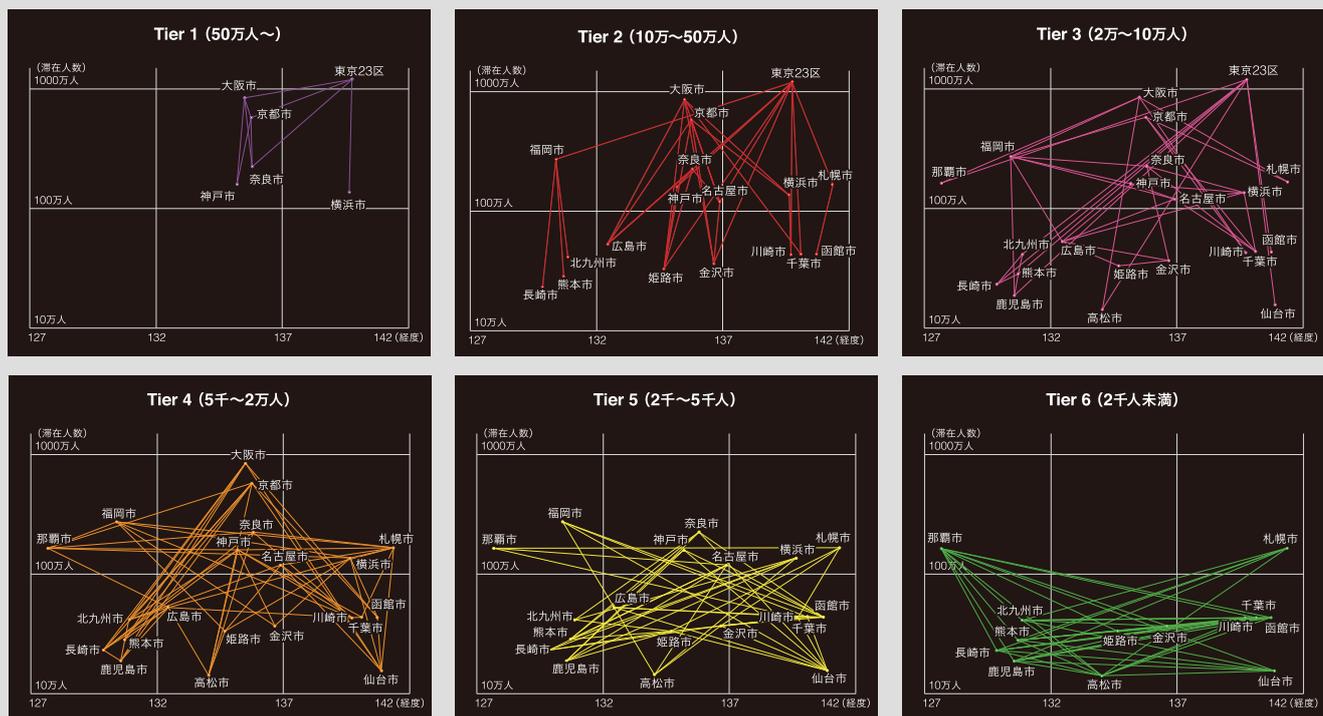
都市間動態分析

対象22都市間の外国人訪問者数(実人数)をクロス集計することで、対象22都市間のつながりの強さを明らかにするとともに、つながりの強さをレベル別に表現することで、階層別の都市群を見出した。下のグラフは、つながりの強さのレベルに応じた都市群(Tier 1~Tier 6)である。



特集研究

■ 都市間のつながりの強さ(訪問者数)にもとづく都市群【Tier 1~Tier 6】



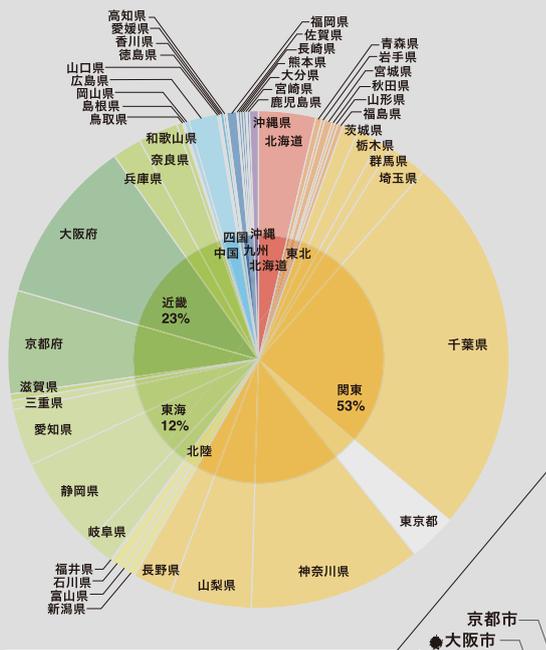
訪問都市分析

対象期間内に、対象22都市（「滞在都市」という）に滞在した外国人訪問者が、同一旅程中に訪問した他の都市（「訪問都市」という）を市単位で集計（実人数）した。訪問都市は日本の全市区町村を集計対象とした。当分析を通じて、滞在都市から見たときの、つながりの強い地域や都市が明らかになった。ここでは、東京23区および他の都市の分析結果の一部を紹介する。

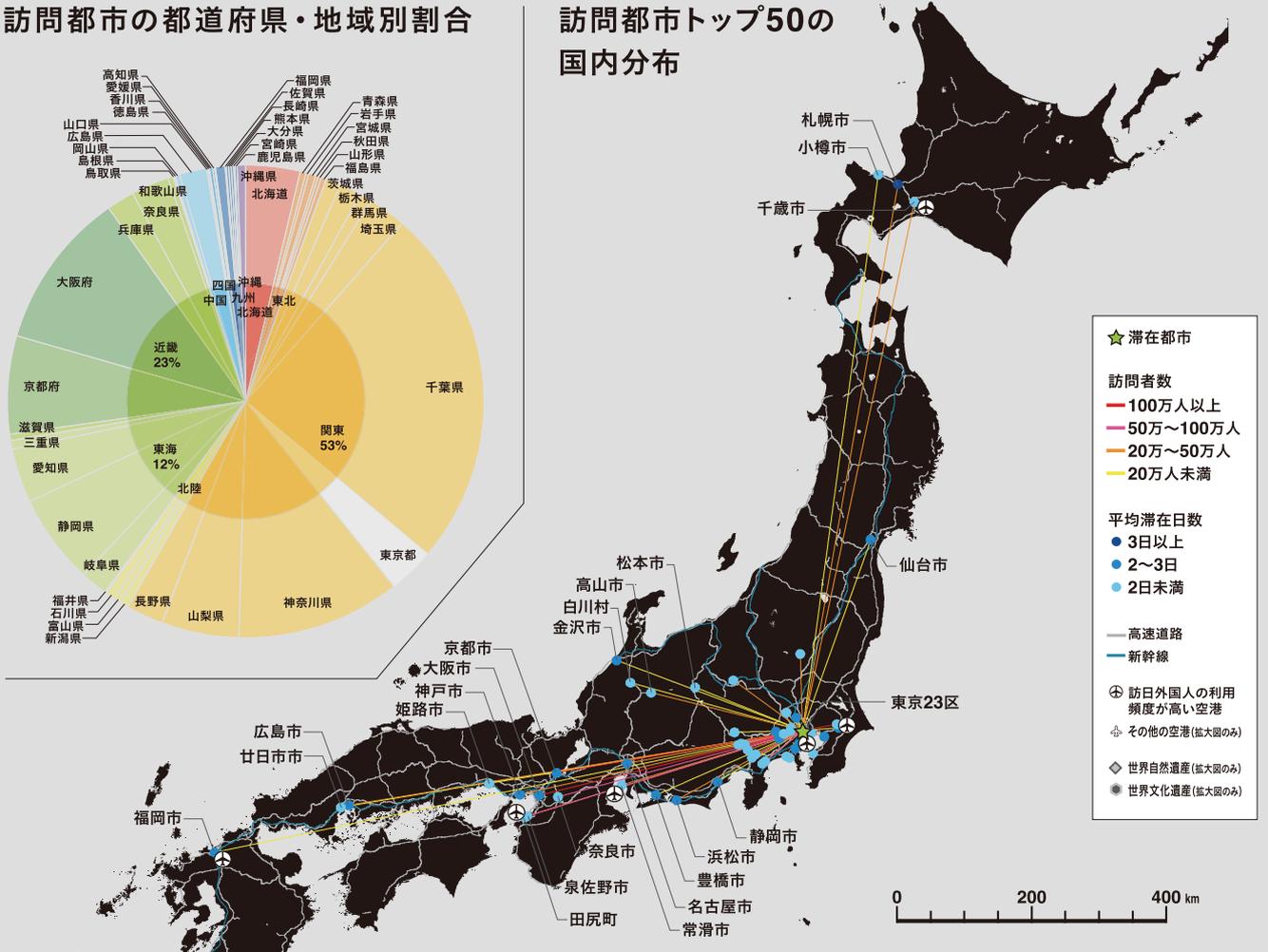
なお、各都市の詳細な結果は、「日本の都市特性評価 DATABOOK 2019」（2019年9月発刊予定）に掲載されている。

■ 東京23区の結果

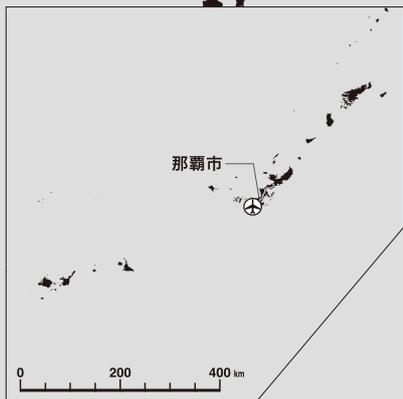
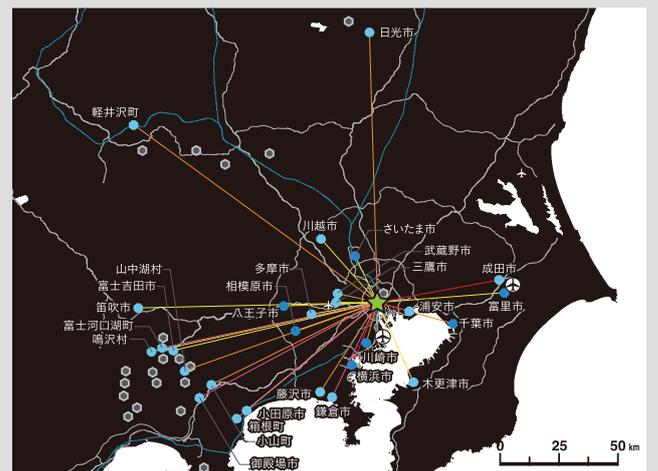
訪問都市の都道府県・地域別割合



訪問都市トップ50の国内分布

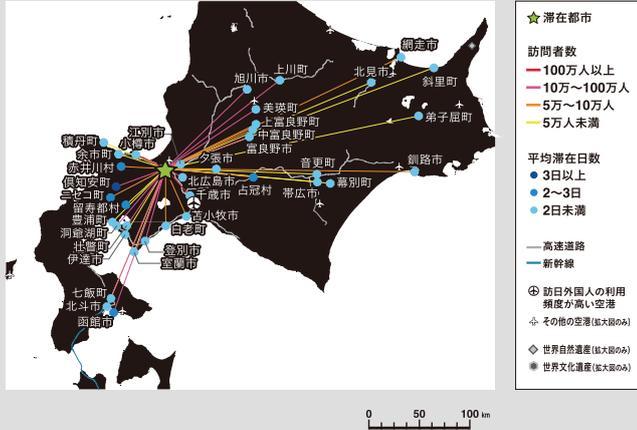


東京23区（拡大図）

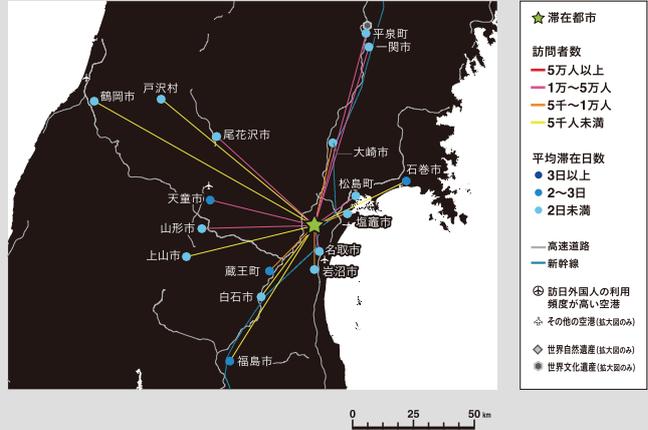


■ 都市別分析の結果 (一部)

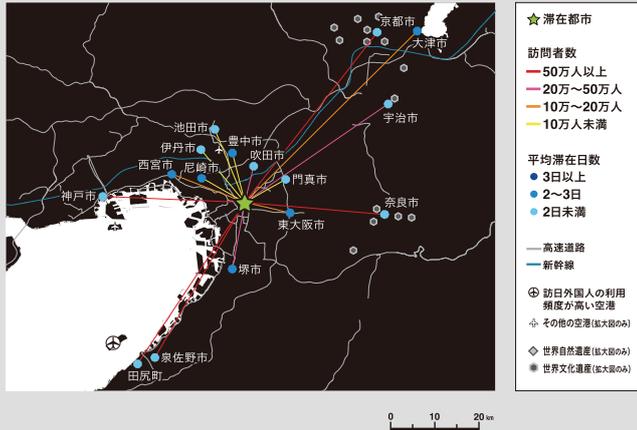
札幌市



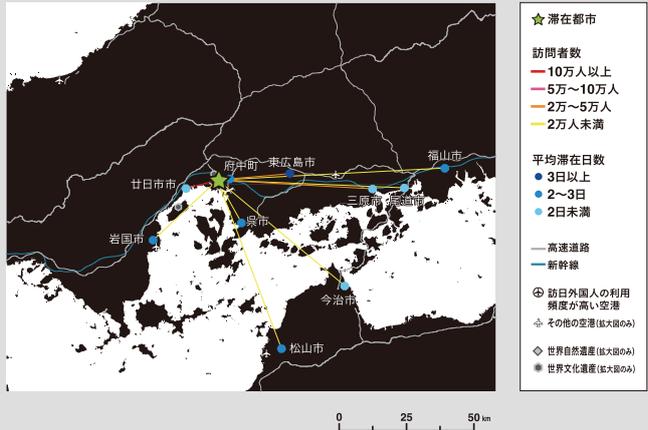
仙台市



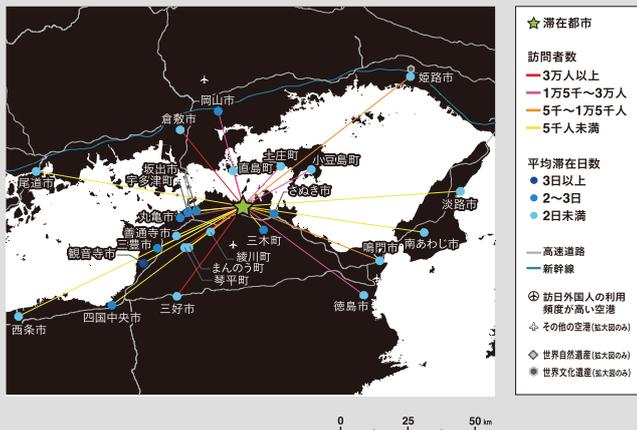
大阪市



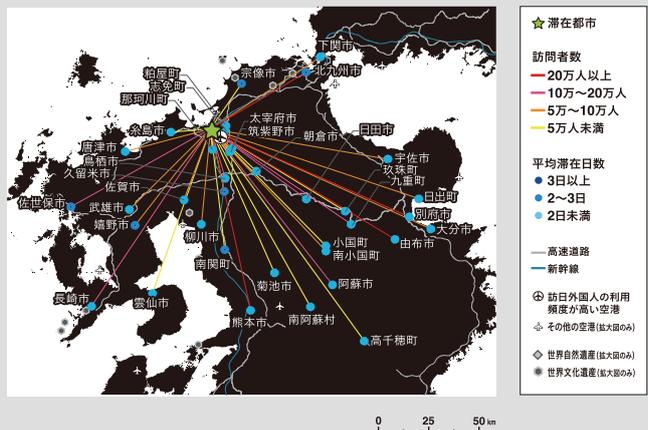
広島市



高松市



福岡市



指標の定義

Definitions of Indicators

指標は、統計資料などにもとづく定量データ（計79指標）および森記念財団が実施した居住者アンケート（計4指標）を用いて設定した。データの取得方法の概要は以下の(1)および(2)の通りである。

(1) 統計資料などにもとづく定量データ（計79指標）

- ・可能な限り、公的な統計資料からデータを取得する
- ・公的な統計によらないデータについては、出典が明確なものを採用する
- ・データの取得期間は、2018年2月～2019年5月

(2) 居住者アンケート（計4指標）

- ・調査方法：インターネット調査
- ・回答者：20歳以上の対象95都市の居住者
- ・有効回収数：計28,400人（各都市300人、千代田区のみ200人）男女比は1:1
- ・年代は、20歳～59歳と60歳以上の比率を概ね6.4:とした
- ・調査時期：2019年4月
- ・調査項目：回答者が居住する都市に対する満足度など、6項目について4段階評価で回答
- ・調査実施会社：株式会社サーベイリサーチセンター

分野	指標グループ	No.	指標名	定義
経済・ビジネス	経済規模	1	付加価値額	経済産業省・内閣官房「RESAS(地域経済分析システム)」における「付加価値額(企業単位)」(出典：総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工)。
		2	地域内総支出	経済産業省・内閣官房「RESAS(地域経済分析システム)」における「総支出(地域内ベース)」(出典：環境省「地域産業連関表」「地域経済計算」)。区別の総支出が公表されていない東京都23区に関しては、総務省統計局「平成27年国勢調査結果」の「人口等基本集計」における人口と「平成26年経済センサス-基礎調査」における「従業者数」(A～R 全産業(S公務を除く))を合計した値を23区と各区で算出し、その比率で按分して推計した値。
		3	昼夜間人口比率	総務省統計局「平成27年国勢調査結果」における昼夜間人口比率(従業地・通学地による人口を常住地による人口で除した割合)。
	雇用・人材	4	従業者数	総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果」における「産業(大分類)、経営組織(4区分)別民営事業所数、男女別従業者数および1事業所当たり従業者数」都道府県、市区町村)に掲載されている「従業者数」(A～R 全産業(S公務を除く))。
		5	賃金水準	総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果」における「給与総額」と「福利厚生費総額」の合計を「従業者数」(A～R 全産業(S公務を除く))で除して算出した値。
		6	高等教育修了者割合	総務省統計局「平成22年国勢調査結果」の「産業等基本集計(労働力状態、就業者の産業など)」に掲載されている高等教育修了者(「卒業者 短大・高専」「卒業者 大学・大学院」)を総務省統計局「平成27年国勢調査結果」の18歳以上人口で除した値。なお、専門学校卒業者はその修業年限によって、上記どちらかに区分される。
		7	若手人材の転入	総務省統計局「平成17年国勢調査結果」における平成17年時点の高等教育機関へ入学する前の世代(15～19歳)の人口に対する、「平成27年国勢調査結果」における平成27年時点の高等教育を修了した世代(25～29歳)の人口の比率。
	人材の多様性	8	女性就業割合	総務省統計局「平成27年国勢調査結果」における「就業状態等基本集計(労働力状態、就業者の産業・職業など)」に掲載されている15～64歳の女性就業者数を、同調査に掲載されている15～64歳の総就業者数で除して算出した値。
		9	外国人就業割合	総務省統計局「平成27年国勢調査結果」における「就業状態等基本集計(労働力状態、就業者の産業・職業など)」に掲載されている15歳以上外国人就業者数を、同調査の15歳以上の就業者数で除して算出した値。
		10	高齢者就業率	総務省統計局「平成27年国勢調査結果」における「就業状態等基本集計(労働力状態、就業者の産業・職業など)」に掲載されている65歳以上就業者数を、同調査に掲載されている65歳以上人口で除して算出した値。
	ビジネスの活力	11	新設事業所割合	総務省統計局「平成26年経済センサス-基礎調査結果」における「事業所に関する集計」に掲載されている「新設事業所数」を「事業所総数」で除して算出した割合。
		12	労働生産性	経済産業省・内閣官房「RESAS(地域経済分析システム)」における「付加価値額(企業単位)」(出典：総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工)を、総務省統計局の「平成28年経済センサス-活動調査結果」に掲載されている「事業所に関する集計」における「従業者数」(A～R 全産業(S公務を除く))で除して算出した値。
		13	特区制度認定地域数	内閣府地方創生推進事務局において「国家戦略特区」に認定された事業数および「総合特区」、「構造改革特区」の特市区数をそれぞれ指数化し、合算した値(なお、都道府県レベルで認定されたものは、0.5の重みづけを行った)。
	ビジネス環境	14	対事業所サービス従業者割合	総務省統計局「平成26年経済センサス-基礎調査結果」における「事業所に関する集計」に掲載されている「70 物品賃貸業」、「72 専門サービス業(他に分類されないもの)」、「73 広告業」の3分類に該当する従業者数を、「平成28年経済センサス-活動調査結果」に掲載されている「従業者数」(A～R 全産業(S公務を除く))で除して算出した割合。
		15	新規オフィス供給面積	国土交通省「建築着工統計調査報告(平成28～30年計)」における「建築物:市区町村別、用途別(大分類)」のうちの「L 不動産用建築物」の床面積の平均を、総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果」に掲載されている「従業者数」(A～R 全産業(S公務を除く))で除して算出した割合。
		16	フレキシブル・ワークプレイス密度	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)総務省統計局「平成26年経済センサス-基礎調査結果」における「参考表4 産業(小分類)、経営組織(2区分)別事業所数および従業者数-全国、都道府県、市区町村」に掲載されている「喫茶店数」を市街化区域(用途地域面積を用いる)で除して指数化した値、および(2)株式会社エッグレイ「コワーキングジャパン」に掲載されているコワーキングスペース数を市街化区域(用途地域面積を用いる)で除して指数化した値。
	財政	17	財政力指数	総務省「平成29年度市町村別決算状況調」に掲載されている「財政力指数」。東京都23区は、東京都総務局行政部「平成29年度 特別区普通会計決算」に掲載されている「財政力指数」。
		18	経常収支比率の低さ	総務省「平成29年度市町村別決算状況調」に掲載されている「経常収支比率」。
		19	実質公債費比率の低さ	総務省「平成29年度市町村別決算状況調」に掲載されている「実質公債費比率」。東京都23区は、東京都総務局行政部「平成29年度決算に基づく健全化判断比率」における「実質公債費比率」。
		20	将来負担比率の低さ	総務省「平成29年度市町村別決算状況調」に掲載されている「将来負担比率」。東京都23区は、東京都総務局行政部「平成29年度決算に基づく健全化判断比率」における「将来負担比率」。

分野	指標グループ	No.	指標名	定義
研究・開発	研究集積	21	学術・開発研究機関従業者割合	総務省統計局「平成26年経済センサス基礎調査結果」における「事業所に関する集計」に掲載されている「学術・開発研究機関」の「従業者数」を、「従業者数」(A~R 全産業(S公務を除く))の総数で除して算出した割合。
		22	トップ大学数	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)株式会社ベネッセコーポレーション「THE世界大学ランキング 日本版 2018」における上位150の大学数を、その大学の順位で重みづけして指数化した値、および(2)Times Higher Education (THE) "World University Rankings 2019"に掲載されている大学数を、その大学の順位で重みづけをして指数化した値。(1)、(2)どちらも、キャンパスが複数の都市に立地している場合は、立地する全ての都市に同数のポイントを与える。
	研究開発成果	23	論文投稿数	科学技術・学術政策研究所(NISTEP)の「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2015」に掲載されている「2004-2013年の10年間で1,000件以上の論文を産出した136大学」を対象に、国立情報学研究所の「CiNii Articles」で検索し(2017/10/23時点および2018/3/6時点)表示される論文投稿数の平均値。キャンパスが複数の都市に立地している場合は、全論文数をキャンパス数で除して、その数値を採用した。
		24	グローバルニッチトップ企業数	経済産業省「グローバルニッチトップ企業100選(GNT企業100選)選定企業一覧」に掲載されている企業の本社、営業所、事業所などの数を合算した値。
ハード資源	観光地	25	観光地の数・評価	「トリップアドバイザー日本」の「観光」における「名所&観光スポット」、「自然&公園」、「屋外アクティビティ」、「美術館・博物館」、「動物園&水族館」、「娯楽施設」、「コンサート&ショー」、「ウォータースポーツ&アミューズメントパーク」の8カテゴリーの観光地数と口コミ数をそれぞれ指数化し合算した値。
		26	文化財指定件数	文化庁「国指定文化財等データベース」および「世界遺産(文化遺産)一覧」に掲載されている建造物、風景、特定のエリアに指定された文化財において、以下の通り文化財の種類に応じて重みづけをした値の合算値:世界遺産(3点)、国宝・特別史跡・特別名勝・重要伝統的建造物群保存地区(2点)、重要文化財・登録有形文化財(建造物)・登録記念物・史跡・名勝・重要文化的景観(1点)
		27	景観まちづくりへの積極度	次の2つの数値の合計値:(1)国土交通省「景観法の施行状況」に掲載されている、対象都市の「景観計画策定」の有無および「景観まちづくり刷新モデル地区」の指定有無(有りにつき1点)。(2)『都市景観の日』実行委員会による、平成23年度以降の「都市景観大賞『都市空間部門』」「景観まちづくり活動・教育部門」および「景観づくり活動部門」の各賞を受賞した地区または活動数、平成13年度~平成22年度の「都市景観大賞『美しいまちなみ賞』」の各賞を受賞した地区数、平成3年度~平成12年度の「都市景観100選」を受賞した受賞者数(1つにつき1点)。県が受賞したものは対象外とする。
	ソフト資源	28	イベントの数・評価	「トリップアドバイザー日本」の「観光」における「イベント」の数とその口コミ数をそれぞれ指数化し合算した値。
29		クリエイティブ産業従業者割合	国際連合開発計画(UNDP)、国際連合教育科学文化機関(UNESCO)、および東京都産業労働局の報告書をもとに、独自に「クリエイティブ産業」を定義し、総務省統計局「平成28年経済センサス活動調査結果」より相当する産業小分類44を抽出した。同調査「事業所に関する集計」に掲載されている当該44小分類の従業者数の合計を、同調査の「従業者数」(A~R全産業(S公務を除く))で除して算出した割合。	
30 Q		文化・歴史・伝統への接触機会	居住者アンケート「現在お住まいの都市は他の都市から訪れた人にとって、魅力的な文化(歴史、伝統、芸術、風習等)に接する機会が多いと思いますか?」の問いに対する回答をもとに算出した値。	
文化・交流	受入環境	31	宿泊施設数	株式会社リクルートライフスタイルの「じゃらん web サービス」に掲載されている宿泊施設数。
		32	高級宿泊施設客室数	株式会社リクルートライフスタイルの「じゃらん web サービス」に掲載されている宿泊施設のうち「ハイクラス」に区分される宿泊施設の客室総数。
		33	イベントホール数	文部科学省「平成27年度社会教育調査」における「劇場、音楽堂等」の数と、株式会社リクルートライフスタイルの「じゃらん web サービス」に掲載されている宿泊施設のうち「ハイクラス」に区分され、バンケット(宴会場)のあるホテル数の合計値。
		34	観光案内所・病院の多言語対応	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)日本政府観光局(JNTO)「JNTO認定外国人観光案内所」に掲載されている観光案内所数を、その観光案内所の多言語対応や観光案内の提供範囲等で区分されたカテゴリーで重みづけをした値、および(2)日本政府観光局(JNTO)「外国人旅行者の受入が可能な医療機関」に掲載されている医療機関数。
交流実績	交流実績	35	休日の人の多さ	経済産業省・内閣官房「RESAS(地域経済分析システム)」における「休日滞在人口(2017年14時時点、15歳以上80歳未満人口の12か月平均値)」(出典:株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」)から夜間人口を引いた値を昼間人口で除した値。
		36	行楽・観光目的の訪問の多さ	株式会社ブランド総合研究所「地域ブランド調査2018」における「訪問経験Q9(行楽・観光のため)」の値(%)。
		37	国際会議・展示会開催件数	日本政府観光局(JNTO)「2017年国際会議統計」に掲載されている「国際会議開催件数」と、株式会社ピーオービー「展示会データベース2018年版」に掲載されている「展示会開催件数」をそれぞれ指数化し合算した値。
発信実績	発信実績	38	観光客誘致活動	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)国土交通省観光庁『日本版DMO』『日本版DMO候補法人』登録一覧に掲載されているDMOについて、市区町村単位の地域DMOを1法人につき1点、広域連携DMOと地域連携DMOを1法人につき0.5点として、法人数に重みづけして指数化した値、および(2)ツーリズムEXPOジャパンのウェブサイトに掲載されている過去4年の民間を除く出展団体について、市町村単位の団体を1法人につき1点、都道府県レベルの団体を1法人につき0.5点として、団体数に重みづけして指数化した値。
		39	自治体SNSフォロワー数	Facebook、Twitter、Youtubeにおける、自治体の公式アカウントやチャンネル(災害情報や選挙関連情報のみ発信しているもの、観光協会発信のものは対象外)のフォロワー数をソーシャルメディア(SNS)ごとに指数化し、合算した値。
		40	魅力度・認知度・観光意欲度	株式会社ブランド総合研究所「地域ブランド調査2018」における「魅力度」、「認知度」、「観光意欲度」の3つの点数を合算した値。

指標の定義

Q: 居住者アンケート結果を用いている指標

分野	指標グループ	No.	指標名	定義
安全・安心		41	刑法犯認知件数の少なさ	警視庁、各都道府県の警察署または各都道府県が公表する刑法認知件数を昼間人口(千人あたり)で除して算出した値。
		42	交通事故死者数の少なさ	公益財団法人交通事故総合分析センター「イタルダ インフォメーション」に掲載されている平成27～平成29年の「全国市区町村別 交通事故死者数」の平均値を昼間人口(万人あたり)で除して算出した値。
		43	災害時の安全性	次の4つの数値に基づいてスコアを算出した。1)総務省統計局「平成25年住宅・土地統計調査結果」に掲載されている、「昭和55年以前建築の住宅戸数」を総戸数で除した値。2)同調査の「総戸数に占める避難場所が1km以上離れている戸数」を総戸数で除した値。3)国土交通省国土政策局「国土数値情報(平成23年)」に掲載されている「浸水想定区域面積」を総面積で除した値。4)総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2016」に掲載されている「建物火災出火件数」を昼間人口(一万人あたり)で除して算出した値。
		44	空家率の低さ	総務省統計局「平成25年住宅・土地統計調査結果」における「居住世帯の有無(8区分)別住宅数及び住宅以外で人が居住する建物数一市区町村」に掲載されている「居住世帯なし」の「空き家」のうち「その他住宅」に区分されている住宅数を、同調査の住宅総数で除して算出した値。
健康・医療		45	医師の多さ	厚生労働省「平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査」における「医療施設従事医師数、主たる診療科・従業地による二次医療圏・市区町村別」に掲載されている「医療施設従事医師数」の総数を昼間人口(千人あたり)で除して算出した値。
		46	病院・診療所の多さ	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)厚生労働省「平成29年医療施設(動態)調査」における病院総数を昼間人口(百万人あたり)で除して指数化した値、および(2)同調査における一般診療所総数を昼間人口(百万人あたり)で除して指数化した値。
		47	平均寿命・健康寿命	次の2つの数値にもとづいてスコアを算出した:(1)厚生労働省「平成27年市区町村別生命表の市区町村別平均寿命、および(2)浜松医科大学「平成28年都道府県別健康寿命」。(2)は都道府県データのため、(1)の半分の重みづけをした。
育児・教育		48	合計特殊出生率	厚生労働省「平成20～24年 人口動態保健所・市区町村別統計」に掲載されている合計特殊出生率(ベイズ推定値)。
		49	保育ニーズの充足度	厚生労働省「各市区町村における待機児童解消に向けた取組状況の『見える化』について」に掲載されている、0歳児、1・2歳児の申込者数(保育ニーズ)を定員数(整備量)で除した値。
		50	子どもの医療費支援	厚生労働省「平成29年度 幼児等に係る医療費の援助についての調査」の「別紙3 市区町村における幼児等医療費援助の実施状況」に掲載されている医療費援助(通院)および(入院)の対象年齢に応じた点数(就学前1点、9歳年度末2点、12歳年度末3点、15歳年度末4点、18歳年度末5点)、および所得制限と一部自己負担の有無(無しにつき1点)の合計点。
		51	高偏差値高校数	代表的な高校偏差値情報サイトに掲載されている偏差値65以上の高校数。
生活・居住 市民生活・福祉		52	外国人住民の受入体制	日本経済新聞が2019年2月12日に掲載した外国人住民の受け入れ体制に関する調査結果(記事見出し「外国人政策、自治体格差広がる恐れ」)を用いて、指数化した値。同調査は、日本経済新聞が主要自治体の外国人住民の受け入れに関する主な13項目の取り組み状況を調べたもので、各項目を4カテゴリー(○:すでに実施、△:実施を検討、×:実施していない、-:未回答)に区分している。森記念財団で4カテゴリーを点数化し(「すでに実施」を1点、「実施を検討」を0.5点、「実施していない」や「未回答」を0点)、その点数を合算した値。掲載のない都市は各自治体に問い合わせた。
		53	要支援・要介護高齢者の少なさ	厚生労働省「介護保険事業状況報告(暫定)(平成30年11月分)」における65歳以上の「要介護(要支援)認定者数」を、同報告に記載されている65歳以上人口で除した値。なお、佐賀市においては「平成28年版佐賀市統計データ」の「社会福祉」に掲載されている要介護(要支援)認定者数を65歳以上人口で除した値。
		54	地域包括支援センターの多さ	各自治体または社会福祉協議会等が公開している地域包括支援センター(ランチ、サブセンター、分室を含む)および在宅介護支援センターの合計数を高齢者人口(千人あたり)で除して算出した値。
		55 Q	居住環境の満足度	居住者アンケート「ご自宅周辺の居住環境(防炎性、防犯性、利便性など総合的に)にどのほど満足していますか?」の問いに対する回答をもとに算出した値。
居住環境		56	新規住宅供給の多さ	国土交通省「建築着工統計調査報告(平成30年計分)」における「着工建築物:市区町村別、用途別(建築物の数、床面積の合計、工事費予定額)」に掲載されている「居住専用住宅」の「建築物の数(棟)」を、夜間人口(一万人あたり)で除して算出した値。
		57	住宅の広さ	総務省統計局「平成25年住宅・土地統計調査」における1住宅あたり延べ面積。
		58	住宅のバリアフリー化率	総務省統計局「平成25年住宅・土地統計調査」の「バリアフリー化住宅に居住する65歳以上の世帯員のいる主世帯総数」を、「65歳以上の世帯員のいる主世帯総数」で除して算出した値。
生活利便施設		59	小売事業所密度	総務省統計局「平成26年経済センサス-活動調査結果」における「各種商品小売業」、「織物・衣服・身の回り品小売業」、「飲食料品小売業」、「機械器具小売業」および「その他の小売業」の事業所数を市街化区域(用途地域面積を用いる)で除して算出した値。
		60	飲食店舗密度	総務省統計局「平成26年経済センサス-基礎調査結果」の「事業所に関する集計」における「飲食店」および「持ち帰り・配達飲食サービス業」の事業所数を市街化区域(用途地域面積を用いる)で除して算出した値。
		61	コンビニ密度	代表的なインターネット電話帳に掲載されているコンビニ数を市街化区域(用途地域面積を用いる)で除して算出した値。
生活の余裕度		62	可処分所得	総務省統計局「平成26年全国消費実態調査結果」に掲載されている、二人以上の世帯のうち勤労者世帯の1か月間の「可処分所得額」(実収入から非消費支出を引いた額)。東京23区については「東京都特別区部」の平均値。
		63	物価水準の低さ	総務省統計局「小売物価統計調査(構造編)2017年」に掲載されている、第1表「10大費目別消費者物価地域差指数(全国平均=100)」の、「持家の帰属家賃を除く総合」より算出した値。なお、県庁所在市および政令指定都市以外の都市はデータが掲載されていないため、都道府県の値を代用する。
		64	住宅コストの低さ	総務省統計局「平成26年全国消費実態調査結果」の都道府県別 家計収支に関する結果に掲載されている「住居費」と「持ち家(現住居)の帰属家賃」の合計値。東京23区については、以下の2つのデータをもとに推計した。1)同調査の横浜市の値および東京都特別区部の平均値。2)代表的な賃貸不動産サイトにおける、各区および横浜市の住宅賃料相場(2LDK程度)。

分野	指標グループ	No.	指標名	定義
環境	環境パフォーマンス	65	リサイクル率	環境省「一般廃棄物処理実態調査(平成29年度調査結果)」の「市町村集計結果(ごみ処理状況)」に掲載されているリサイクル率(リサイクル率 R')。東京23区については「東京都23区分」の値。
		66	CO ₂ 排出量の少なさ	環境省「地球温暖化対策地方公共団体実行計画(区域施策編)策定支援サイト」の「策定支援ツール・事例」に掲載されている「平成30年度 部門別CO ₂ 排出量の現況推計」の各市区町村のCO ₂ 排出量合計値を昼間人口(万人あたり)で除して算出した値。
		67	再生可能エネルギー自給率	千葉大学倉阪研究室+認定NPO法人環境エネルギー政策研究所提供の「エネルギー持続地帯2018年度版 市区町村別集計表(総合) 2017年度実績推計」の再生可能エネルギー自給率(電力+熱)の値。太陽光発電、事業用発電、地熱発電、小水力発電、バイオマス発電、バイオマス熱、太陽熱利用、地熱利用が対象。
		68	EV充電スタンドの多さ	代表的な地図ポータルサイトに掲載されている全国の電気自動車充電スタンド一覧より、住所情報にもとづいてカウントした件数を、一般財団法人自動車検査登録情報協会「市区町村別 自動車保有車両数平成30年3月末現在 -No46-」に掲載されている乗用車保有車両数(普通・小型の自家用及び営業用)で除して算出した値。
	自然環境	69 Q	自然環境の満足度	居住者アンケート「自然環境(山や森、海や川、緑豊かな公園や街路樹など)にどれほど満足していますか?」の問いに対する回答をもとに算出した値。
		70	都市地域緑地率	国土交通省国土政策局「国土数値情報(平成26年)」における「都市地域土地利用細分メッシュ」を用いて、田、その他の農用地、森林、荒地、公園・緑地、ゴルフ場の面積を抽出し、都市地域総面積で除して算出した値。なお、「都市地域」とは国土を都市地域、農業地域、森林地域、自然公園地域、自然保全地域の5地域に分類したときの「都市地域」を指し、都市計画法第5条により都市計画区域として指定されている又は指定されることが予定されている地域を指す。
		71	水辺の充実度	株式会社東京地図研究社のオリジナル地図を用いて、行政区画総面積における水辺面積を推計し、これを都市計画区域面積で除して算出した値。水辺面積の推計は以下のルールにもとづいて行った。(1)面データがある水域(主に海)においては、陸域から100m圏内の水面の面積を算出した。(2)線データしかない水域(主に川)においては、陸域から100m圏内の水域の線データの長さを算出し、水域の幅を10mと設定し、算出した長さに乗じた。
	快適性	72	年間日照時間	国土交通省国土政策局「国土数値情報(平成28年)」における「平年値(気候)メッシュ」から年間日照時間の合計値。
		73	気温・湿度が快適な日数	気象庁「過去の気象データ・ダウンロード」に掲載されている、各市区役所から最も近い観測地点の2018年1年間の不快指数が60以上75以下の日数。不快指数は、日平均気温および日平均湿度を用いて、以下の計算方法で算出した。不快指数(DI)=0.81T+0.01H×(0.99T-14.3)+46.3 (Tは気温℃、Hは湿度%)
		74	空気のきれいさ	国立環境研究所「大気環境月間値・年間値データ」における「窒素酸化物(NO _x)」の濃度と「微小粒子状物質(PM _{2.5})」の濃度において、全測定局の2016年の年間平均値をそれぞれ指数化し、合算した値。
交通・アクセス	都市内交通	75 Q	公共交通の利便性	居住者アンケート「公共交通(鉄道やバスなどの運行本数、施設・設備、サービスなど総合的に)にどれほど満足していますか?」の問いに対する回答をもとに算出した値。
		76	鉄道駅・バス停密度	国土交通省国土政策局「国土数値情報(平成28年)」における「鉄道駅データ」と「バス停留所データ」に掲載されている鉄道駅数とバス停留所数を、都市計画区域面積からそれぞれ密度を算出し、指数化した値を合算した。
		77	交通渋滞の少なさ	国土交通省「平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査」に掲載されている「旅行速度整理表都道府県別道路種別別」より、自動車専用道路以外の昼間12時間平均旅行速度(時間帯別交通量加重)の上り・下りを平均した値。
	都市外アクセス	78	空港の利用のしやすさ	次の2つの数値にもとづいてスコアを計算した:(1)Googleマップで算出される各市区役所から最寄りの空港までの最短アクセス時間(平日朝10時到着、自動車による移動)を指数化した値、および(2)国土交通省「平成29年航空輸送統計年報」の「第3表 国内定期航空路線別、区間別、月別運航および輸送実績」を用いて算出した、各市区役所から最寄りの空港の国内線就航都市数を指数化した値。
		79	新幹線の利用のしやすさ	次の2つの数値にもとづいてスコアを計算した:(1)新幹線の停車駅がある都市は、国土交通省国土政策局「国土数値情報(平成28年)」の「駅別乗降客数データ」から取得した新幹線(山形新幹線・秋田新幹線を含む)停車駅の乗降客数(新幹線・在来線の合算値)。新幹線の停車駅がない都市は、対象都市内で乗降客数が最大の駅から最も近い新幹線の停車駅の乗降客数。(2)新幹線の停車駅がない都市は、都市内の中心駅(最も乗降客数が多い駅)から新幹線駅までの移動時間(平日朝10時到着、鉄道による移動)。新幹線の停車駅がある都市は、移動時間を0とした。なお、始発でも新幹線の停車駅に朝10時までに到達が不可能な場合は、データ欠損とした。乗降客数が記載されていない駅については、個別にデータを収集した。
		80	インターチェンジ数	国土交通省国土政策局「国土数値情報(平成28年)」の「高速道路時系列データ」における「一般インターチェンジ」および「スマートインターチェンジ」の数。
	移動の容易性	81	都市のコンパクトさ	総務省統計局「平成27年国勢調査結果」における「人口等基本集計(男女・年齢・配偶関係、世帯の構成、住居の状態など)」に掲載されている、人口集中地区の人口を夜間人口で除して算出した割合。なお、人口集中地区とは「(1)原則として人口密度が1km ² あたり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境界内で互いに隣接して、(2)それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有する地域」。
		82	通勤時間の短さ	総務省「平成25年住宅・土地統計調査」における家計を主に支える者の通勤時間の中央値。
83		駅のバリアフリー化率	株式会社ヴァル研究所「駅すばあとWeb サービス」で取得した全鉄道駅のバリアフリー化の整備状況を、以下の条件で点数化した合計値。「段差なしでの移動経路」が有る場合は1点、要駅員補助は0.5点、無しの場合は0点)なお、点数化は路線ごとではなく鉄道会社ごとに行い、情報が当サービスに掲載されていない駅は0点とする。	

指標の定義

Q: 居住者アンケート結果を用いている指標



日本の都市特性評価

Japan Power Cities — Profiling Urban Attractiveness

2019年9月

編集・発行

一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所

大和 則夫、浜田 祐子、浅野 菜緒子、松田 真理子、ダスタン ピーター、鈴木 健史、磯ヶ谷 遥子

装丁・印刷：新村印刷株式会社

調査に関するお問い合わせ

info@mori-m-foundation.or.jp

一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目5番1号 虎ノ門37 森ビル

TEL：03-6406-6800

www.mori-m-foundation.or.jp

© 2019 The Mori Memorial Foundation

このパンフレットを許可なく複製・頒布することを禁じます。

J A P A N
P O W E R
C I T I E S

Profiling Urban Attractiveness